

横 嶋 楯 跡
水 沢 館 跡
発 掘 調 査 報 告 書

1996

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

よこ ぐき 楯 跡
横 岫 楯 跡
みず さわ 館 跡
水 沢 館 跡
発掘調査報告書

平成8年9月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



横嶋権跡 調査区全景（東から）



横嶋権跡 出土遺物



水沢館跡 調査区全景（西から）



水沢館跡 石積み検出状況（北から）

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが平成6年度に発掘調査を実施した、横軸橋跡・水沢館跡の調査成果をまとめたものです。

横軸橋跡・水沢館跡は、山形県の中心部、霊峰月山の南東麓にあたる西村山郡西川町に位置します。両遺跡はその西川町の西部、東流する寒河江川の左岸に張り出した丘陵に立地します。

この度東北横断自動車道酒田線（寒河江～西川間）の建設工事に伴い、工事に先立って横軸橋跡・水沢館跡の発掘調査を実施しました。

調査では、横軸橋跡で6つの造成された平場と、礎石をもつ建物跡、石積み、六十里越街道の切通し、柱穴群や溝跡などが発見されました。時代は近世後期～近代前期と考えられます。水沢館跡では3つの造成された平場と石積みが発見されました。時期は中世以降と考えられます。

近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。これらの埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成8年9月

財団法人山形県埋蔵文化財センター

理事長 木場清耕

例言

- 1 本書は東北横断自動車道酒田線（寒河江～月山沢間）建設工事に係る「横軸橋跡」「水沢館跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査は日本道路公団仙台建設局山形工事事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター		
遺跡名	横軸橋跡（CNKYG）	遺跡番号	平成4年度登録
所在地	山形県西村山郡西川町大字水沢字鎌立		
調査期間	発掘調査	平成6年4月1日～平成7年3月31日	
	現地調査	平成6年6月6日～平成6年7月21日	34日間
	報告書作成	平成7年4月1日～平成8年9月30日	
発掘調査担当	調査研究課長	佐々木洋治	（現研究課長）
	主任調査研究員	野尻 侃	（現調査第二課長）
	調査研究員	眞壁 建	
	嘱託職員	長南 憲一	

遺跡名	水沢館跡（CNKMS）			遺跡番号	平成4年度登録
所在地	山形県西村山郡西川町大字水沢字沼頭				
調査期間	発掘調査	平成6年4月1日～平成7年3月31日			
	現地調査	平成6年7月14日～平成6年10月28日	66日間		
	報告書作成	平成7年4月1日～平成8年9月30日			
発掘調査担当	調査研究課長	佐々木洋治	（現研究課長）		
	主任調査研究員	野尻 侃	（現調査第二課長）		
	調査研究員	眞壁 建	小関 真司		
	嘱託職員	長南 憲一			
資料整理担当	調査第二課長	佐藤 庄一	（現調査第一課長）		
	調査研究員	眞壁 建			

- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、日本道路公団仙台建設局（現東北支社）山形工事事務所、山形県寒河江建設事務所、西村山教育事務所、西川町教育委員会等関係機関の協力を得た。また現地調査と報告書作成にあたって、小林克、堀内秀樹、松岡進、横山勝栄の各氏からご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げる。
- 5 本書の作成・執筆は眞壁 建が担当した。編集は尾形典典、水戸弘英、丸山晶子、松田亜紀子が担当し、全体については佐藤庄一が監修した。
- 6 委託業務は下記のとおりである。

横軸橋跡	遺構の写真実測	株式会社パスコ
水沢館跡	遺構の写真実測	株式会社パスコ
	放射性炭素年代測定	株式会社パレオ・ラボ
- 7 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S B	……掘立柱建物跡	S D	……溝跡	S K	……土坑
S P	……単独のピット	E P	……遺構内の柱穴		
S X	……性格不明遺構	P	……土器	W	……木
R P	……一括・登録土器	R Q	……登録石製品		

なお、今次の調査では、礎石建物跡について便宜上掘立柱建物跡を示す記号である S B を使用した。

- 2 遺構番号は現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。

- 3 報告書執筆の基準は下記のとおりである。

- (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
- (2) グリッドの南北軸は、横軸軸跡はN-16°-E、水沢館跡はN-8°-Eを測る。
- (3) 遺構実測図は1/30・1/40・1/50・1/80・1/200・1/400/縮図で採録し、各挿図毎にスケールを付した。
- (4) 遺構実測図のスクリーントーンは下記のとおりである。
 ……礎  ……地山
- (5) 遺物実測図・拓影図は 陶磁器は1/3、石器は1/2、古銭は1/1で採録し、遺物実測図・拓影図には各々スケールを付した。
- (6) 本文中の遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表と共通のものとした。
- (7) 基本層序、遺構覆土の色調の記載については、1987年度版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。

目 次

I 調査の経緯	
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の方法と経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1. 地理的環境	8
2. 歴史的環境	8
III 横岫橋跡	
1. 調査の概要	9
2. 遺構と遺物	10
IV 水沢館跡	
1. 調査の概要	33
2. 遺構と遺物	39
V まとめ	
1. 横岫橋跡	51
2. 水沢館跡	51

挿 図

横岫橋跡		水沢館跡	
第1図 横岫橋跡調査区概要図	2	第23図 水沢館跡概要図	34
第2図 水沢館跡調査区概要図	3	第24図 遺構配置図 地形図	35
第3図 遺跡位置図	5	第25図 1号~3号平場 A-A'・B-B'・C-C' 土層断面図	37
第4図 横岫橋跡・水沢館跡地形横断面図	7	第26図 1号平場D-D'・西側鞍部E-E' 土層断面図	40
第5図 遺構配置図・1号平場遺構配置図・7号平場遺構配置図	11	第27図 2号平場 (53, 57~58) G F-F' 石積み 平・側面図	41
第6図 SB1・2 礎石建物跡	13	第28図 (50~52, 60) G G-G' 土層断面図	42
第7図 SB1・2 礎石建物跡エレベーション	14	第29図 東側鞍部 (60~61, 57~58) G H-H'・I-I' 土層断面図	43
第8図 SB1・2 礎石建物跡土層断面	15	第30図 西側鞍部 J-J'・K-K'・L-L' 土層断面図	44
第9図 SB1・2 礎石建物跡古銭出土状況	16	第31図 農道側斜面 M-M'・N-N' 土層断面図	45
第10図 SB1・2 礎石建物跡縁石平・側面図	17	第32図 1号平場 O-O'・P-P' 土層断面図	46
第11図 3号石積 平・側面図	18	第33図 東側鞍部・北側鞍部 Q-Q'・R-R' 土層断面図	47
第12図 4号石積 平・側面図	19	第34図 SP50・51・SK54・SP55 出土遺物	48
第13図 1号平場 基本層序	20	第35図 出土遺物	49
第14図 1号平場 SD49・EP50~55・SK56 平・断面図	21		
第15図 2~4号平場・4号~5号平場土層断面図	22		
第16図 7号平場基本層序 SK10・14 土坑 平・断面図	23		
第17図 出土遺物1	25		
第18図 出土遺物2	26		
第19図 出土遺物3	27		
第20図 出土遺物4	28		
第21図 出土遺物5	29		
第22図 1号平場遺構変遷図	30		

表

表1 横岫橋跡出土遺物観察表	31
表2 横岫橋跡出土古銭(寛永通寶)計測表	32
表3 水沢館跡出土遺物観察表	50

図 版

巻頭図版1

横軸橋跡 調査区全景 (東から)
横軸橋跡 出土遺物

巻頭図版2

水沢館跡 調査区全景 (西から)
水沢館跡 石積み検出状況 (北から)

図版1

遺跡遠景 (東から)
竊入れ式
調査区全景 (東から)
3号平場調査前状況 (西から)
3号平場伐木撤去状況 (西から)
調査区伐木撤去状況 (東から)
1号平場伐木撤去状況 (南から)
伐木撤去状況 (東から)
SB1・2調査前状況 (南西から)
作業風景 (東から)

図版2

7号平場西側完掘状況 (西から)
7号平場U-U'土層断面 (北から)
7号平場U-U'地点隆起状況 (北から)
SK10土層断面 (北から)
SK10完掘状況 (北から)
EP50土層断面 (南東から)
EP51完掘状況 (南から)
EP51完掘状況 (南から)
1号平場北側土層断面 (南から)
SD49・柱穴群完掘状況 (南から)

図版3

SB1土層断面 (北から)
SB1西側土層断面 (北から)
SB1南北土層断面 (北から)
SB1・2完掘状況 (西から)
SB1・2調査状況 (北西から)
SB1礎石 (上方北)
1号平場 (51-52) 表土除去状況 (南から)
SB1礎石下根固状況
1号平場H-H'土層断面部分その1 (西から)
1号平場H-H'土層断面部分その2 (北西から)

図版4

3号石積み検出状況 (南から)
1号平場H-H'地点切石出土状況 (北西から)
1号平場I-I'東側土層断面 (北から)
4号石積み検出状況 (北東から)
磁器 (RP30) 出土状況
磁器 (RP31) 出土状況
磁器 (RP32) 出土状況
陶器 (RP33) 出土状況
陶器 (RP34) 出土状況
RX41出土状況

図版5

横軸橋跡出土遺物(1)

図版6

横軸橋跡出土遺物(2)

図版7

横軸橋跡出土遺物(3)

図版8

横軸橋跡出土遺物(4)

図版9

遺跡遠景 (南東から)
調査区近景 (西から)
調査区近景 (東から)
重機稼働状況 (東から)
東側斜面伐木撤去状況 (北東から)
東側斜面調査前状況 (北東から)
東側斜面伐木撤去状況 (南西から)
東側斜面平場調査前状況 (南から)
調査区表土除去状況 (東から)
調査風景 (南から)

図版10

1号平場検出状況 (北から)
1号平場・東側鞍部検出状況 (北西から)
1~2号平場検出状況 (北東から)
2~3号平場検出状況 (南西から)
西側鞍部検出状況 (北から)
3号平場検出状況 (北から)
西側斜面検出状況 (南から)
西側鞍部検出状況部分 (北から)
C-C'西側土層断面 (北東から)
K-K'土層断面 (北東から)

図版11

1号平場土層断面 (南東から)
C-C'東端土層断面 (北から)
O-O'南端土層断面 (東から)
A-A'東端土層断面 (北から)
C-C'中央土層断面 (北西から)
A-A'西端土層断面 (北西から)
C-C'2~3号平場土層断面 (北から)
A-A'3号平場西側土層断面 (北から)
J-J'西側鞍部土層断面 (北から)
C-C'西端土層断面 (北東から)

図版12

東側斜面7号トレンチ土層断面 (北東から)
C-C'1号石積み土層断面 (北東から)
Q-Q'土層断面 (北東から)
東側斜面1~2号トレンチ土層断面 (東から)
R-R'東側鞍部土層断面 (北から)
N-N'土層断面 (北から)
M-M'土層断面 (西から)
G-G'土層断面 (西から)
1~2号石積み検出状況 (西から)
1号石積み精査前状況 (北から)

図版13

1号石積み検出状況 (西から)
1号石積み検出状況 (北から)
1号石積み検出状況 (南西から)
1号石積み南端検出状況 (西から)
東側鞍部土層断面 (西から)
2号平場落ち込み完掘状況 (南から)
SK54土層断面 (東から)
SK54完掘状況 (東から)
SX56土層断面 (南から)
現地説明会風景 (北から)

図版14

水沢館跡出土遺物(1)

図版15

水沢館跡出土遺物(2)

I 調査の経緯

1. 調査に至る経過

遺跡の発見は、平成元年に県文化課(現文化財課)が日本道路公団仙台建設局山形工事事務所に事業照会を行ったところ、寒河江～月山沢間において東北横断自動車道酒田線建設工事の計画が回答され、同年には公団側より県文化課に当該区域の分布調査依頼が出されたため、遺跡の詳細な資料が必要となったことによる。

この年、寒河江市高屋～西川町海味間において「関係事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認」する分布A調査が実施された。このおり寒河江～西川間で高瀬山遺跡を含む18遺跡を踏査・確認している。

平成3年には昭和63年度より進められていた中世城館址調査の成果を受けて、西川町から中世城館址調査の中間報告が出され、用地内に5カ所の城館跡が入ることが判明した。

これを受けて平成4年には西川町管内で中世城館跡のA調査と、平成元年・2年にA調査を実施・確認した遺跡のB調査を実施した。新規発見遺跡として月岡台ノ倉橋跡、横軸橋跡、石倉館跡、水沢館跡、綱取館跡、睦合館跡が登録された。表面踏査では遺物は採集されなかったものの、斜面を造成して築かれた曲輪や防御施設としての空堀や土塁が良好な状態で確認されている。

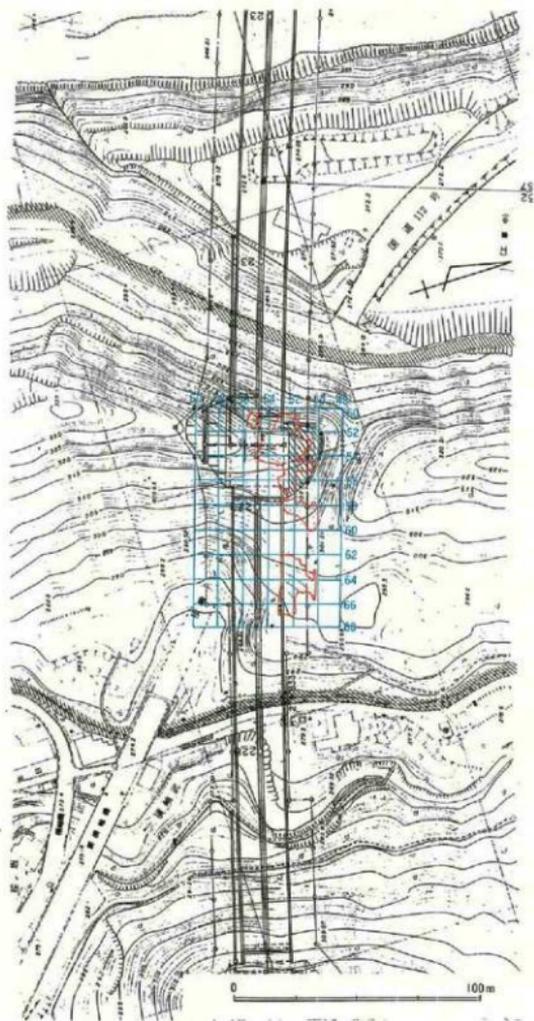
平成5年には平成4年度のA調査の結果を受けて、「坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図る」ために分布B調査を実施した。横軸橋跡では坪掘区・トレンチを11カ所に設定、調査した結果、礎石建物跡、土坑と旧六十里越街道を確認した。水沢館跡では坪掘区・トレンチを合わせて20カ所を設定、調査したが、この時は遺構や遺物は未確認で終わっている。

以上の平成元年からの各種の調査成果を受けて、県文化財課では道路公団と遺跡の保存協議や施工方法等を含めた事前協議を重ねて調整した結果、記録保存を目的とした緊急調査をすることとなり、平成6年に財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受けて発掘調査を実施する運びとなった。

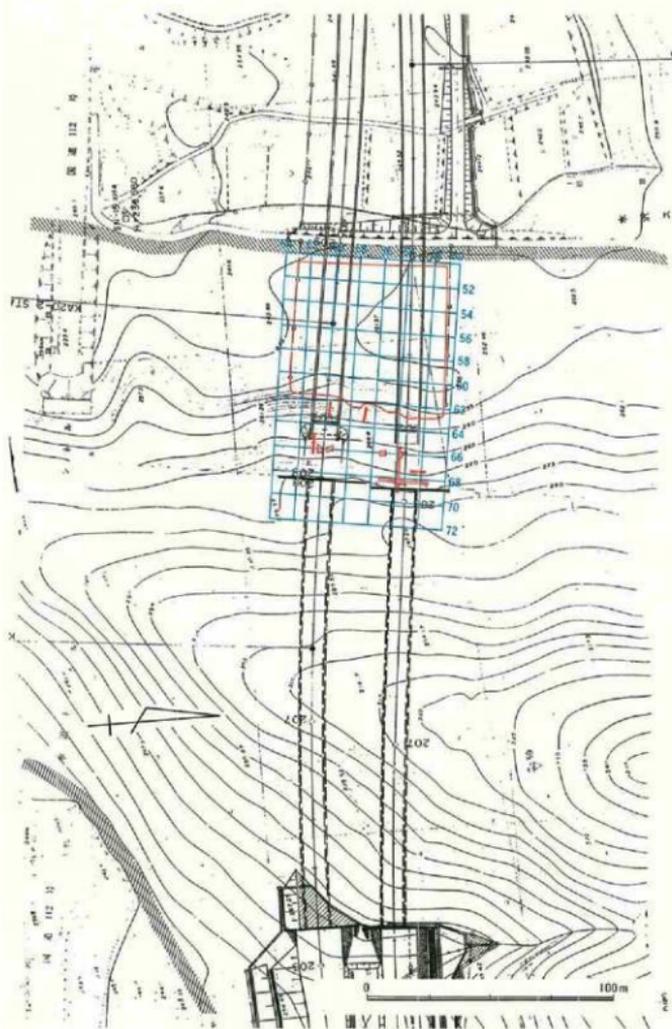
2. 調査の方法と経過

(1) 調査の方法

第一段階として調査中の記録や出土遺物の整理のためにグリッドと呼ばれる方眼地区割を行う。今回の調査では5m方眼を採用した。横軸橋跡では路線の中心杭STA228+40とSTA229+20を直線で結んだものをY軸とし、それに直交する線をX軸とした。グリッド番号の起点はX軸は西、Y軸は北に設定している。Y軸の傾きはN-16°Eである。水沢館跡では横軸同様に路線の下り車線の中心杭STA208+00とSTA209+00を直線で結んだものをY軸とし、それに直交する線をX軸とした。グリッド番号の起点はX軸は西、Y



第1図 横浜福跡調査区概要図 (S=1:2,000)



第2図 水沢館跡調査区概要図 (S = 1 : 2,000)

軸は北に設定している。Y軸の傾きは $N-8^{\circ}-E$ である。杭打ち作業は株式会社工藤測量設計に10m間隔で委託して行った後、必要な箇所については調査員が5m間隔で適宜追加した。

現地地形面を観察するため、下草刈りと小伐木の撤去を行う。横軸橋跡では重機が入れないため人力で尾根頂部から順に下に落とした。水沢館跡ではかなりの伐木が現場に残されていたため、西村山森林組合にお願いして斜面のものはウインチで引き落とし細切れにし、後の重機による表土除去の際、調査区内から搬出した。

次に粗掘り作業である。横軸橋跡では急斜面が多く、バックホー等重機の進入路確保が困難であったため、重機の使用は小型のものをを用い、一番標高が低く、広い平坦面を持つ7号平場のみとし、後は手掘りで行った。基本的には下位の平場を先に調査してから上位の平場に調査を移して行くよう努めた。これは付近に土置き場を確保することが困難であり、調査終了した平場を土置き場とするためである。水沢館跡ではほとんどの表土除去を重機で行った。その際検出面までの深さが浅く、重機が稼働することで破壊されることが高い確率で想定されたため、判いた表土を下に敷きながら掘り下げを進めるよう注意した。

表土を除去し粗掘りが終了した後は面整理を行い、遺構検出に努めた。検出された遺構は番号を登録し混乱をきたさないようにした。遺物についても同様である。写真や平面図の作成等の記録作業が終了したら、土層や遺物の出土状況を観察するため遺構を半載して掘り下げる。必要なものについては写真や断面図を作成し完掘する。このおり理化学分析が必要と認められるものについては土壌サンプルを採集する。完掘した遺構についても必要なものについては記録作業を行う。

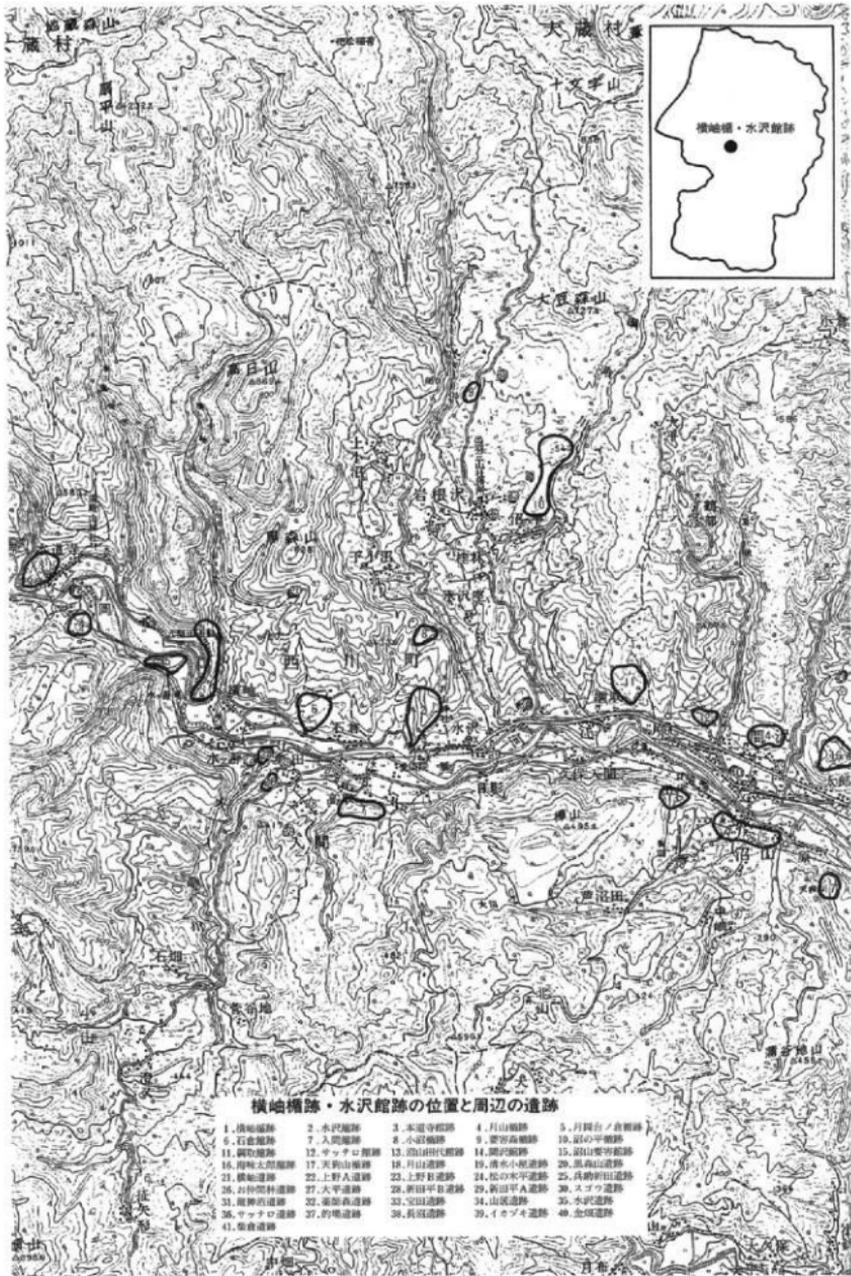
最後に全体の平面図作成と鳥瞰写真の必要性から空中撮影を実施した。撮影と製図は株式会社バスコに委託して行った。

現地調査終了後、埋蔵文化財センターでは基本的に埋め戻しは、深い遺構など放置して危険なものについては実施している。横軸橋跡・水沢館跡の両遺跡では着工までの期間があり、どちらも国道ないし町道に隣接し、かつ県の地滑り対策地区内に所在するため、日本道路公園山形工事事務所の指導を受けて重機による埋め戻しを行い、調査前の状況に近い状態に復した。

(2) 調査の経過

調査の経過については、以下工程順に調査日誌を要約して述べる。

横軸橋跡は平成6年6月6日より器材の搬入を行った。午後より鉋入れ式を行い、日本道路公園仙台建設局山形工事事務所、西川町教育委員会、山形県寒河江建設事務所等の出席を得た。6月9日まで事務所内外の環境整備と併行して、調査区内の下草刈りと伐木の搬出を行う。測量会社委託による方眼地区割杭打ち実施し、終了する。6月10日より調査区の範囲と分布調査のデータを確認するためトレンチ掘りを実施する。6月15日より7号平場の人力による粗掘り開始する。6月16日からはミニバックホウを導入、6月21日まで稼働する。この間面整理と遺構検出作業、遺構掘り下げを行う。1号平場の遺物出土状況



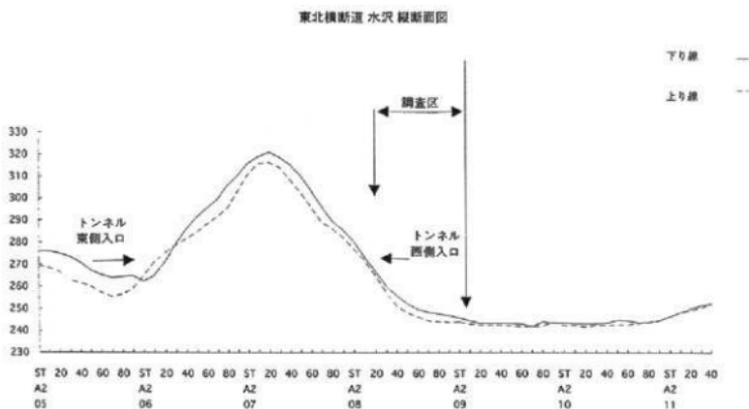
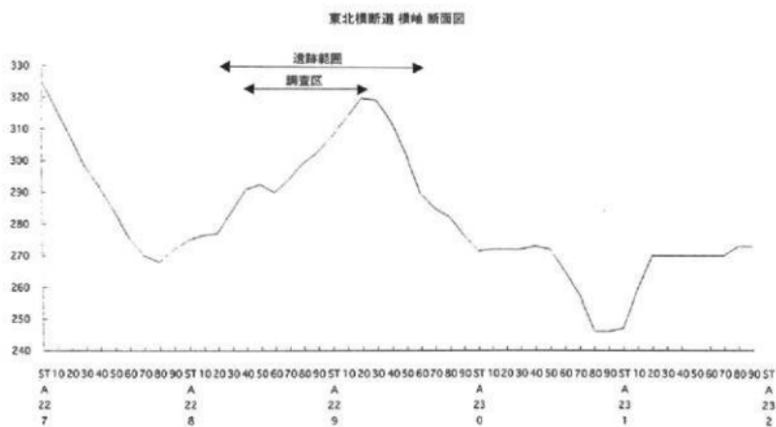
第3図 遺跡位置図 (S=1:50,000)

などの平面図を作成する。7号平場のSK10・14土坑など検出した遺構の半截並びに完掘またそれに伴う記録作業を実施する。1号平場のSB1礎石建物跡の掘り下げを行う。6月27日には1～4号平場へ、5号平場～7号平場への土落とし用の樋を取り付ける。1号平場の掘り下げ終了し、3号石積み、4号石積みを検出する。また各平場の掘り下げも行った。7月6日より1号平場のSD49溝跡、柱穴群の精査を開始する。記録作業も進める。7月11日には土落とし用の樋を取り外し、翌12日には午前中に空中撮影を実施終了し、午後より現地調査説明会を開催した。説明会には財団法人山形県埋蔵文化財センターの他に、日本道路公団仙台建設局山形工事事務所、西川町教育委員会、地元関係者等の参加を得ている。その後、水沢館跡の調査と併行しながら7月21日まで記録作業のみを継続、終了した。7月25～28日に埋め戻しを実施した。

水沢館跡の調査は7月14日から開始し、14日には横軸掘跡より器材を搬入した。伐木の撤去を重機で行うため、進入路部分のトレンチ掘りを実施した。7月21日より西村山森林組合による伐木の処理を行い、7月26日に終了した。引き続き第1期重機による伐木の搬出を開始した。予想外の量となり作業は困難を伴い、8月1日に終了する。8月2日、100分の1地形測量のためセソナ機を使用した空中撮影を実施する。8月3日より9日まで第2期の重機を導入して表土除去作業を行う。8月9日測量会社による杭打ち作業を行い、終了する。この間の主な作業としては布掘りによる調査区の確定と木根の処理であった。面整理を開始したのは8月3日からである。8月23～25日、第3期の重機を導入し、残土処理や土呈状遺構の東西方向の断ち割りを実施する。面整理と遺構検出作業は1号平場に移動する。8月30日に杭打ち作業を行い、すべての杭打ち作業を完了する。検出作業が終了した区域については平板にて100分の1平面図を作成する。9月22日には面整理がほぼ終了するが、トレンチ調査を進めながらなお部分的に継続する。9月28日より遺構精査を開始する。東側鞍部が中心となる。また各トレンチの断面図作成を中心とした記録作業がようやく軌道に乗る。10月17～18日に東側斜面に9カ所のトレンチを設定、調査する。10月26日には委託業者による空中撮影を実施した。10月27日の午後から調査説明会を開催した。地元水沢小学校の生徒を含む84名の参加を得られた。この後なお残された記録作業を行った。10月28日にはリース機材等の引き上げを確認し、撤収を完了した。埋め戻し作業は翌月の11月1～2日に実施、完了した。

〔註〕

- (1) 山形県教育委員会 『分布調査報告書(21)』 山形県埋蔵文化財調査報告書 第194集 1994年
- (2) 同上



第4図 横軸橋跡・水沢踏跡地形横断面図

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

横軸橋跡は山形県の中央部に位置し、月山東麓の山形県西村山郡西川町大字水沢に所在する。地形的には寒河江川左岸の川に突き出すように張り出した丘陵上に位置する。標高は335.1mを測る。水沢館跡は同じく西村山郡西川町大字水沢に所在する。寒河江川左岸の河岸段丘の段丘面の平坦地を遮る丘陵上に立地する。標高は345.4mを測る。いづれも国道112号線のトンネルが山腹を貫いている。

両遺跡の付近には平成5年にも活動を起こして国道112号線を遮断した綱取地すべりがある。特に水沢館跡の所在する丘陵は東西斜面とも地滑り地形で、大正年間、昭和14年、昭和16年の過去3回の地滑りが知られている。付近の水田地帯は湖沼地帯であったといわれ、堤防の役割を果たしていた寒河江川付近の丘陵が明治初年に潰壊して以来水沢地滑りの歴史が始まったらしい。

2. 歴史的環境

横軸橋跡・水沢館跡は、月山・朝日連峰を源にして出羽山地を東流する寒河江川中流の左岸、段丘・山地丘陵部に位置する。寒河江川はやがて肥沃な扇状地を形成し、最上川に合流する。寒河江川の両岸には河岸段丘が発達しており、段丘上や寒河江川支流の山裾を分け行った山地は、早くから人々の生活する好適地であったと考えられる。そこには旧石器時代から縄文時代の遺跡が点在しており、旧石器時代では著名な弓張平B遺跡や寒河江川右岸の入間に所在するお仲間林遺跡、縄文時代では寒河江川左岸の水沢から岩根沢に向かう途中に位置する山居遺跡が存在する。

古代を経て中世に入ると、主に庄内と内陸を結ぶ要衝にある西川町管内には街道を押さえるべく、多くの城館跡が築かれるようになった。特に戦国末期において、最上氏と大宝寺武藤氏との抗争、また慶長五年前夜の最上氏と上杉氏の対立は非常に緊張関係を生み出した。岩根沢の要害、森の橋跡に見られる畝状堅堀群はそのような情勢を端的に表したものとと言える。

近世に入ると出羽三山参りの道筋として重要な役割を果たすようになる。綱取、水沢、横軸、本道寺は出羽三山の入り口として、また六十里越街道の宿場町として繁栄する。横軸には八聖山不動が現在も残り、信仰を集めている。ここは現在も宿坊が認められ、往時を偲ばせてくれる。

維新の際の戊辰戦争の時には、庄内藩兵が山越えをし、寒河江方面で戦闘を行っている。現在では国道112号が横断し、今でも内陸と庄内を結ぶ重要な幹線となっている。

《註》

- (3) 日本道路公団山形工事事務所他 『平成元年度 東北横断自動車道寒河江～月山沢間地表地質調査報告書』 1990年

III 横軸橋跡

1. 調査の概要

(1) 遺跡の層序

各地点により層序の様相が異なるので、1号平場、2号平場～6号平場、7号平場の順で地点毎に説明する。

1号平場 大別すれば3層に分けられる。各層の内容は、(I層) 基本的には岩盤を削った後に溜まった腐葉土層、(II層) 削られた岩盤の破片を盛土、整地した礫層を基調とする土層、(III層) 地山の岩盤となる。以下少々補足を加えれば、I層は厚いところで25cm程であるが、浅いところでは5cmにも満たない。この層からほとんどの遺物が出土している。II層は1号平場を削り出した際に出来た礫で構成される。I層や旧表土と思われる黒色土が混入している場合が見られる。最大長40～80cm程度のものがほとんどである。岩盤に直接盛られ、積み上げられているようにも見受けられた。厚いところで90cmを測る。1号平場の平坦面を構築する際に使用されている。最下層より京焼の碗の破片が出土している。

2号平場～6号平場 基本的には1号平場の層序とは変わらない。トレンチを2本設定して調査を実施したが、礫層中を掘り下げるのは壁の崩壊の危険性が高く、1m程しか掘り込めなかった。そのため、この部分の地山は検出していない。感触では地山面まではかなりありそうである。この中でII層の一部に炭の層が何条か認められ、陶磁器片が出土している。またII層上面には黄褐色土層が各平場の平坦面に敷いたように認められ、整地をしていたことが判明した。

7号平場 (I層) 腐葉土、(II層) 暗褐色微砂、(III層) 黄褐色微砂の3層に大別できる。I層は上述と同じである。II層は深いところで25cm程の堆積を見れる。畑地にしていた際の耕作土と考えられる。III層は地山である。大量の礫を含む。大きな力が加わったためか、地点によってはやや複雑な堆積を見せる。

(2) 遺構と遺物の分布

遺構の主なものとして、東向き斜面に配置される1号から7号までの平場が認められる。ただし7号平場は横軸沢の河岸段丘を利用しているものと思われ、基本的には自然地形であると考えられる。

西側斜面には大きな平場は認められない。今回は伐採が完了であったこと、急斜面で調査が困難であったこともあり調査対象外となり、調査は行っていないが、西側本導寺方面から1号平場に登る幅約1mの道が、葛折りに認められた。途中新道で切られ破壊されているものの、山腹より上位は良好に遺存していた。

各平場のうちで、土坑や柱穴などの遺構が検出されたのは1号平場と7号平場のみである。1号平場は尾根を切り通し、東側に平場を造成して平坦面を確保している。切り通しから中央に道を通し、北側に溝と柱穴群を、南側に礎石建物を配置している。南側には他に、道に平行した石積みが見出されている。

7号平場では新しい攪乱とおぼしき土坑の他、遺物は出土していないが地山面を大きく掘り込んで地山に似た堆積土をもつ土坑SK10、14が検出されている。ただ前述の通り地山面は安定しておらず人為的な遺構かどうか疑問が残る。

遺物のほとんどは1号平場からの出土である。特に古銭を中心とした遺物群は、SB1・2礎石建物跡周辺からの出土である。ただし出土層位は大半がI層であり、時期幅も認められる。3号～4号平場の斜面から陶磁器片が出土している。整地層中からも若干出土している。7号平場からは石器剥片が出土している。

2. 遺構と遺物

(1) 遺 構

【平 場】

1号平場 位置：52～54-51～54G 広さ：東西10m、南北20m 造成方法：岩盤削り出し、一部盛土 諸遺構：SB1～2、SD49、EP50柱穴群、3～4号石積み

出土遺物：磁器碗（第17図1）盃（同図11）碗（同図12、16、17）陶器（第18図24）他

2号平場 位置：54～50～54G 広さ：東西2m、南北25m 造成方法：盛土

諸遺構 なし 出土遺物：磁器碗(8)

3号平場 位置：55～56-51～53G 広さ：東西5m、南北8m 造成方法：盛土

諸遺構：なし 出土遺物：磁器碗(4～7、9、20)香炉(22)

4号平場 位置：57～58-51～52G 広さ：東西7m、南北8m 造成方法：盛土

諸遺構：なし 出土遺物：なし

5号平場 位置：58～59-50～51G 広さ：東西5m、南北10m 造成方法：盛土

諸遺構：なし 出土遺物：なし

6号平場 位置：59～60-48G以北 広さ：調査区外 造成方法：盛土

諸遺構：なし 出土遺物：なし

7号平場 位置：32～52-62～66G 広さ東西50m、南北100m 造成方法：自然地形

諸遺構：なし 出土遺物：磁器碗(第17図15)

【礎石建物跡】

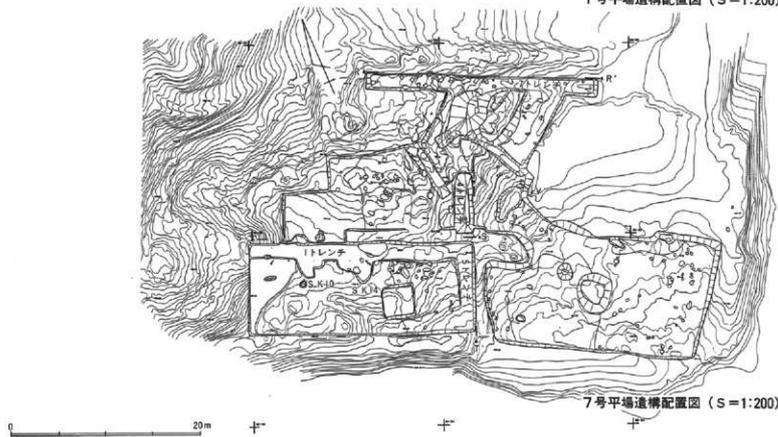
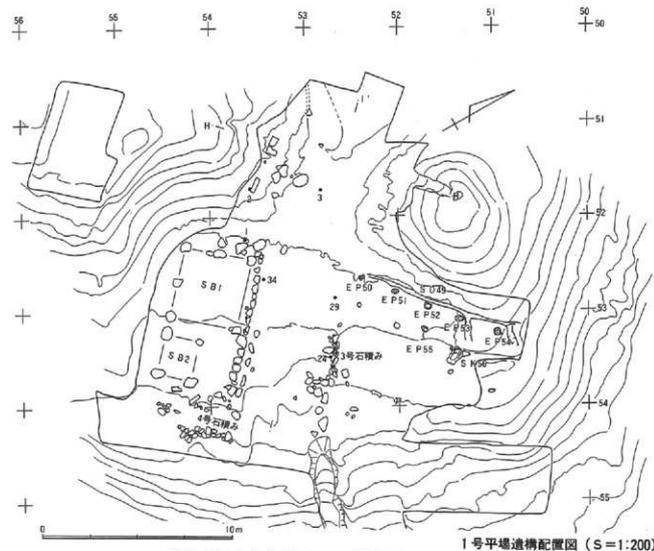
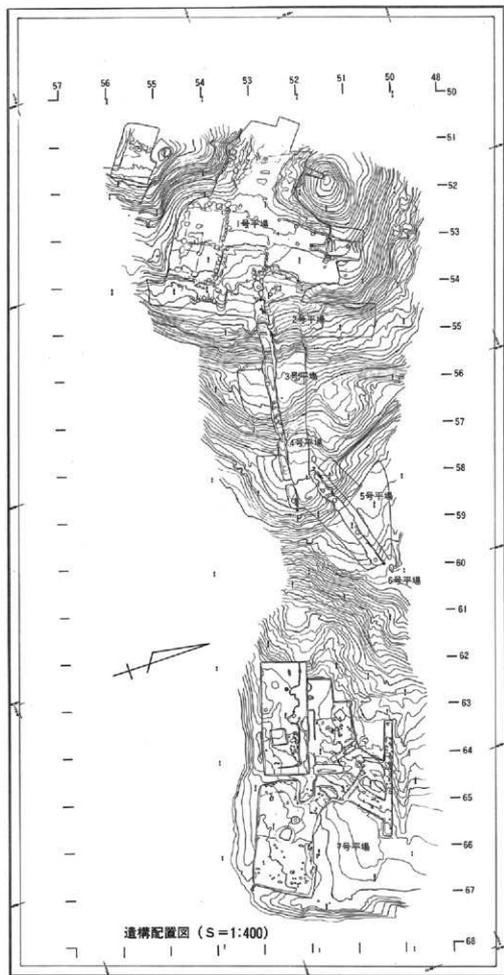
SB1 位置：52～53～54G 規模：東西3.6m、南北3.6m（2間×2間）、柱間1.8m 礎石6基現存 主軸方位N-42°-E 出土遺物：古銭を中心に出土。

SB2 位置：53～53G 規模：東西1.8m、南北1.8m（1間×1間）、柱間1.8m、礎石：4基現存 主軸方位：N-42°-E 出土遺物：陶器甕（第18図26）土瓶（同図30、31）

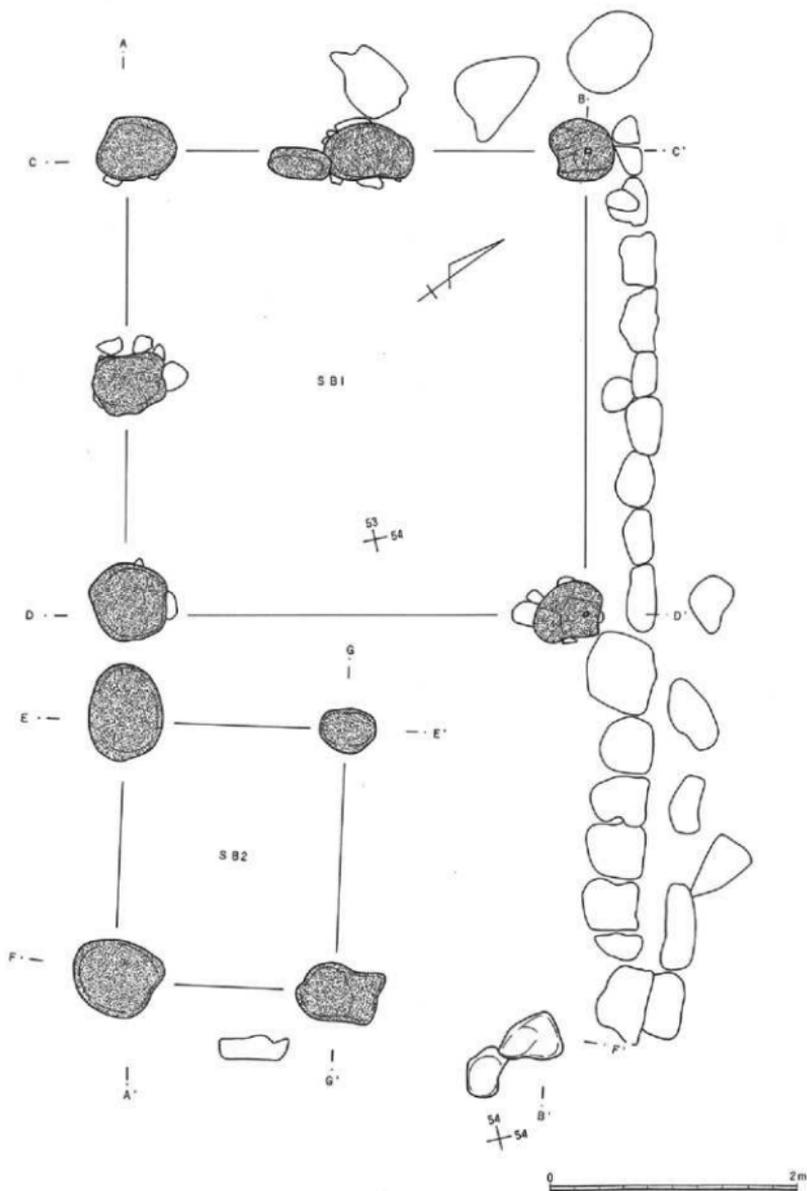
【石積み】

3号石積み 位置：53～52G 規模：長さ2.5m、高さ0.8m 主軸方位：N-35°-E 出土遺物：南側手前より京焼碗（24）

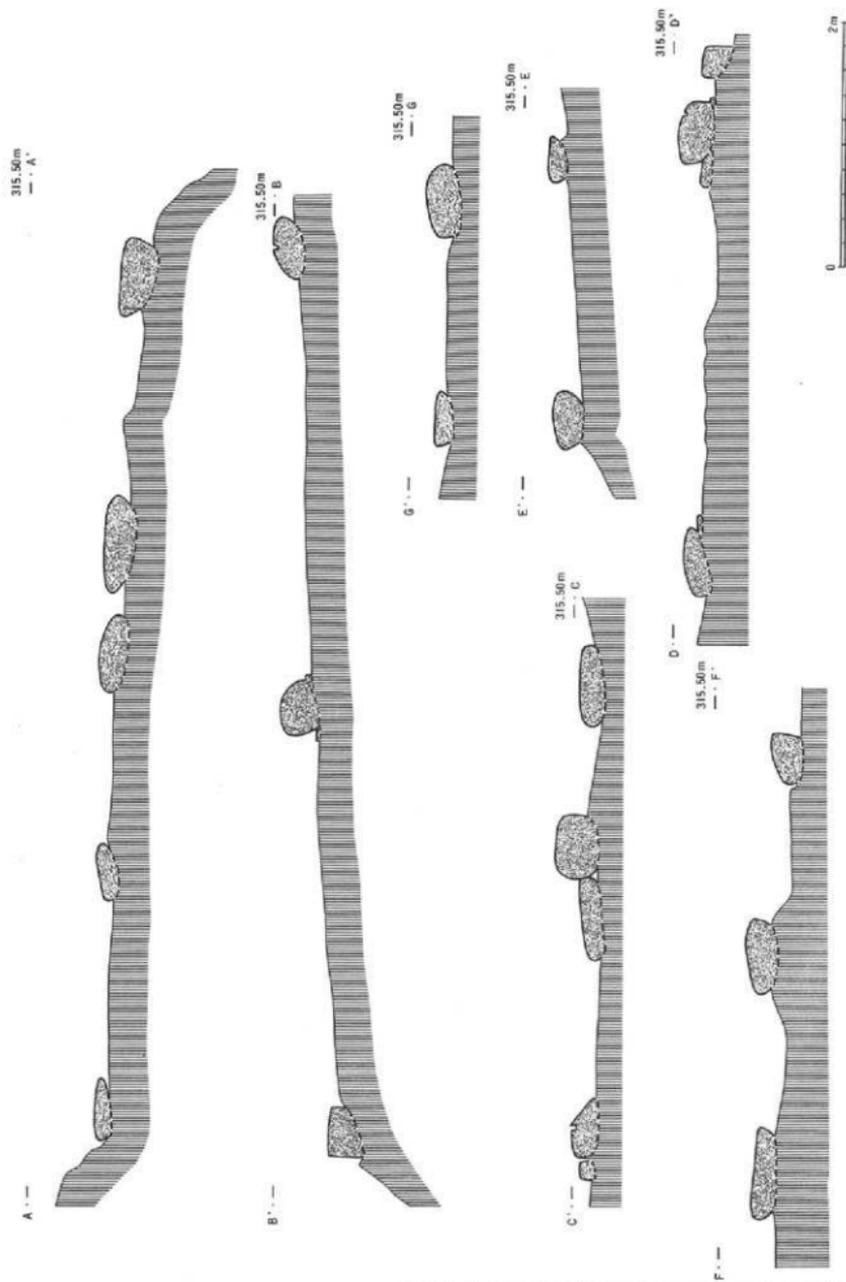
4号石積み 位置：54～53～54G 規模：長さ3m、高さ0.7m 主軸方位：N-30°-E 出土遺物：なし



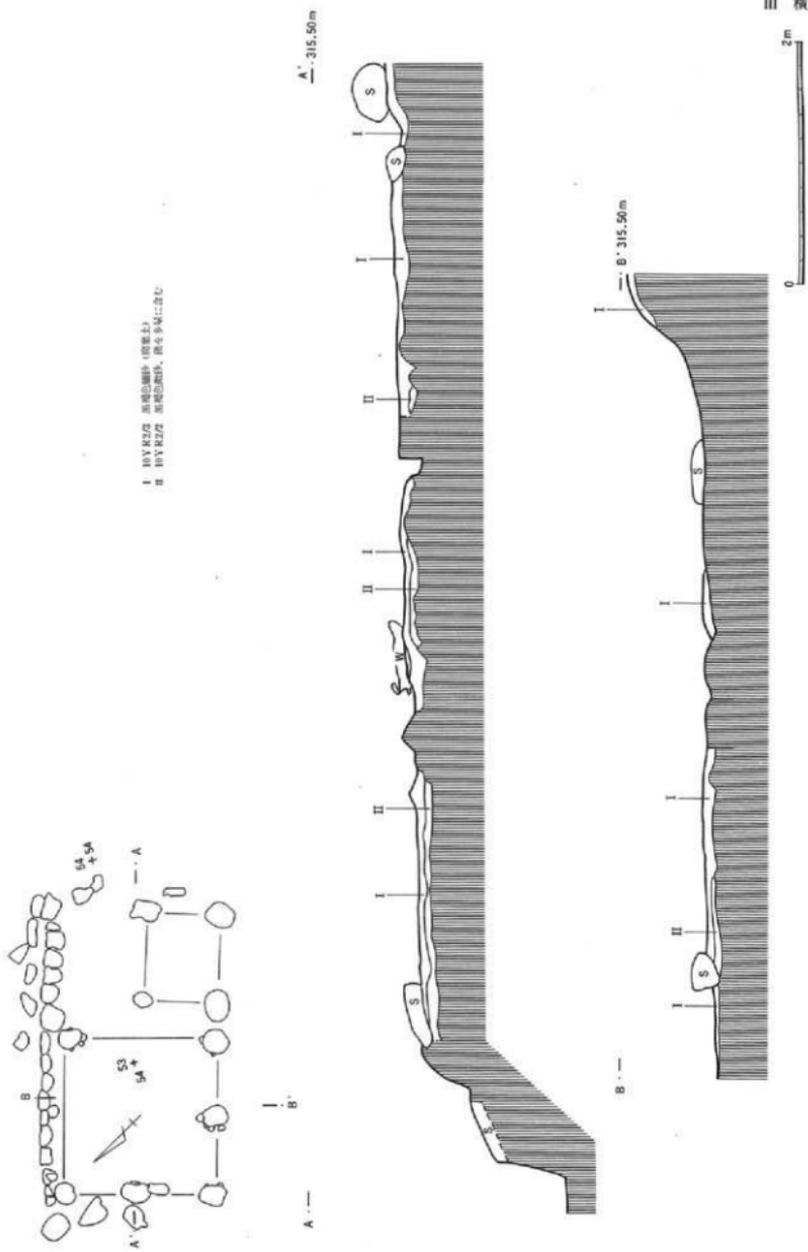
第5図 遺構配置図・1号平場遺構配置図・7号平場遺構配置図



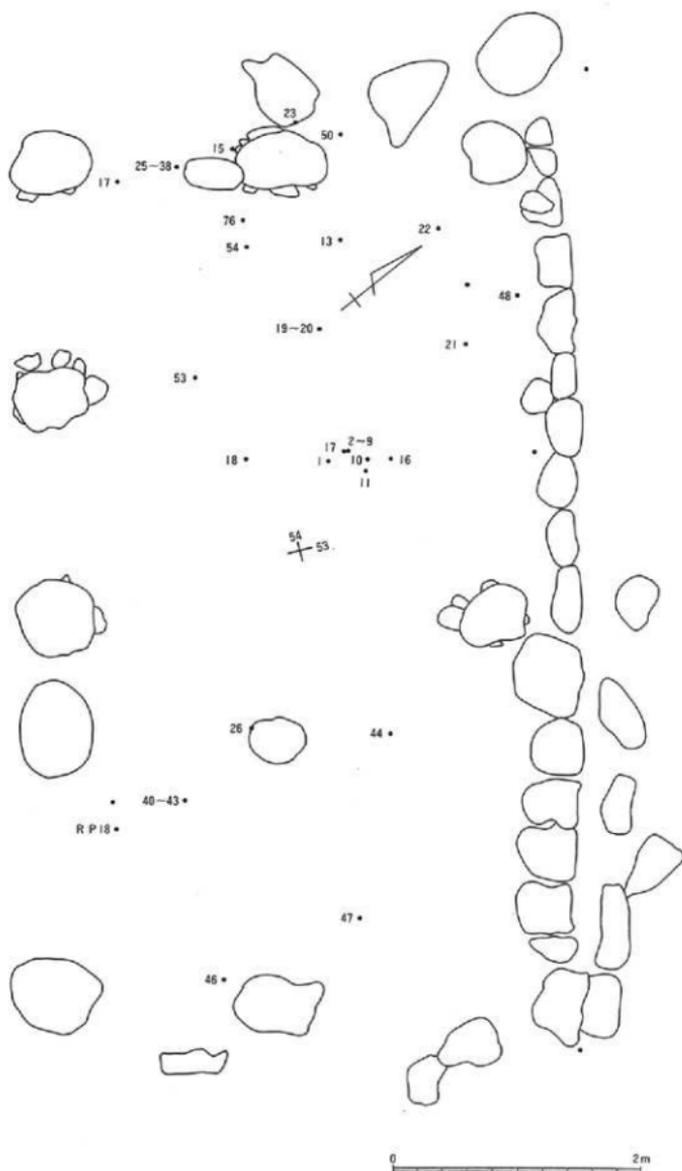
第6図 SB1・2 礎石建物跡 (S=1:40)



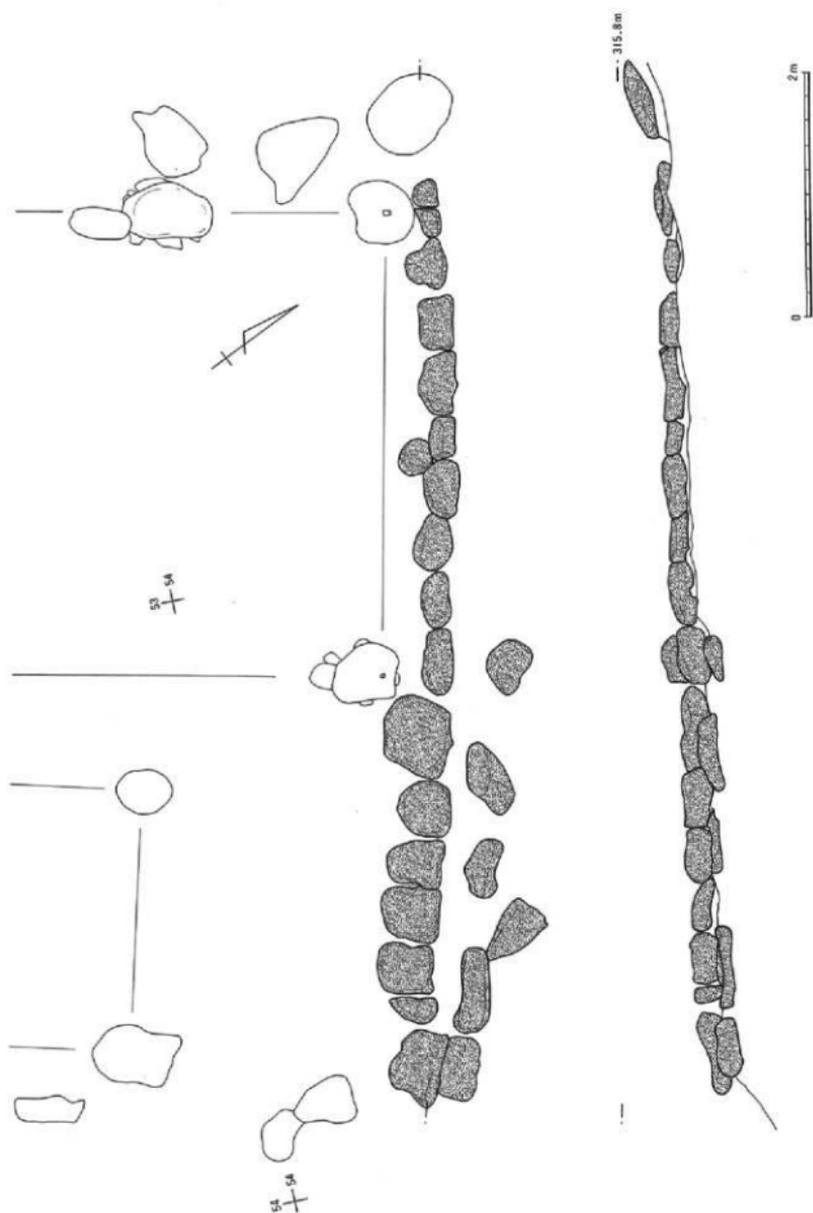
第7図 SB1・2礎石建物跡エレベーション (S=1:40)



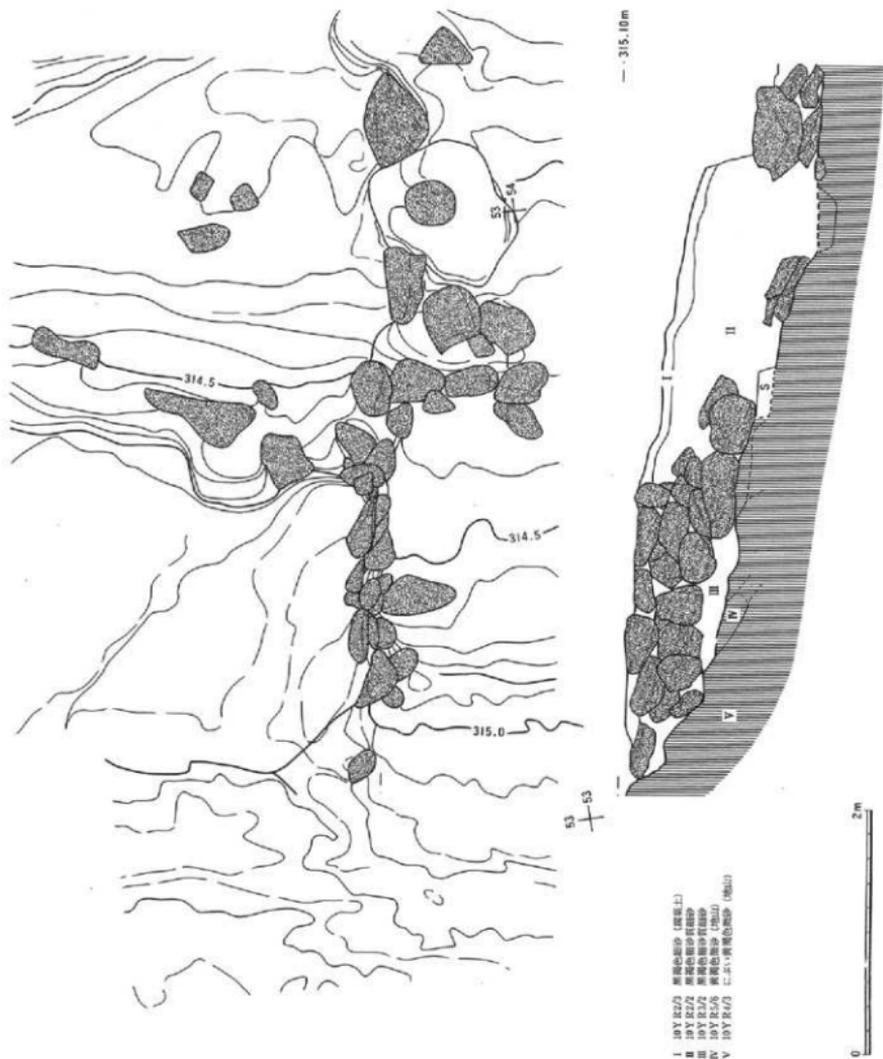
第 8 図 SB1・2 礎石建物跡土層断面 (S=1:40)



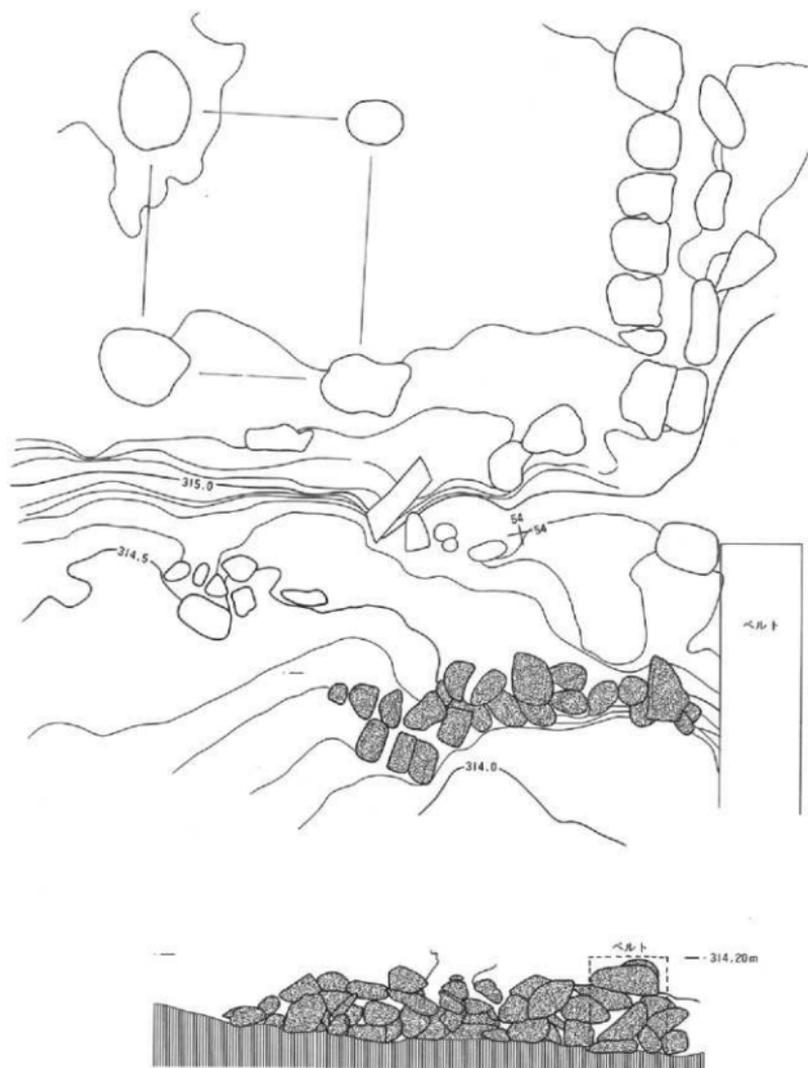
第9圖 SB 1·2 礫石建物跡古銭出土狀況 (S = 1 : 40)



第10图 SB1・2 礎石建物跡緑石 平・側面図 (S=1:40)

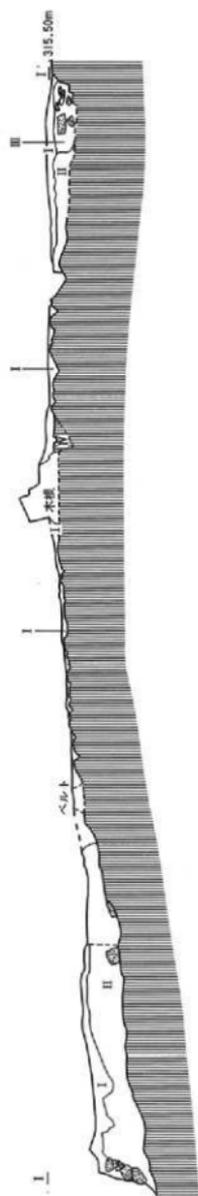


第11图 3号石横 平・側面図 (S = 1 : 40)

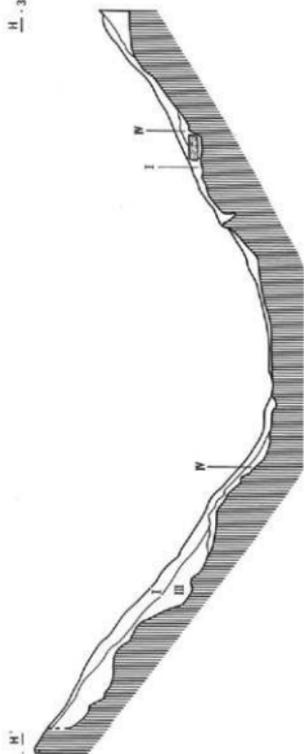


0 2m

第12図 4号石橋 平・側面図 (S = 1 : 40)

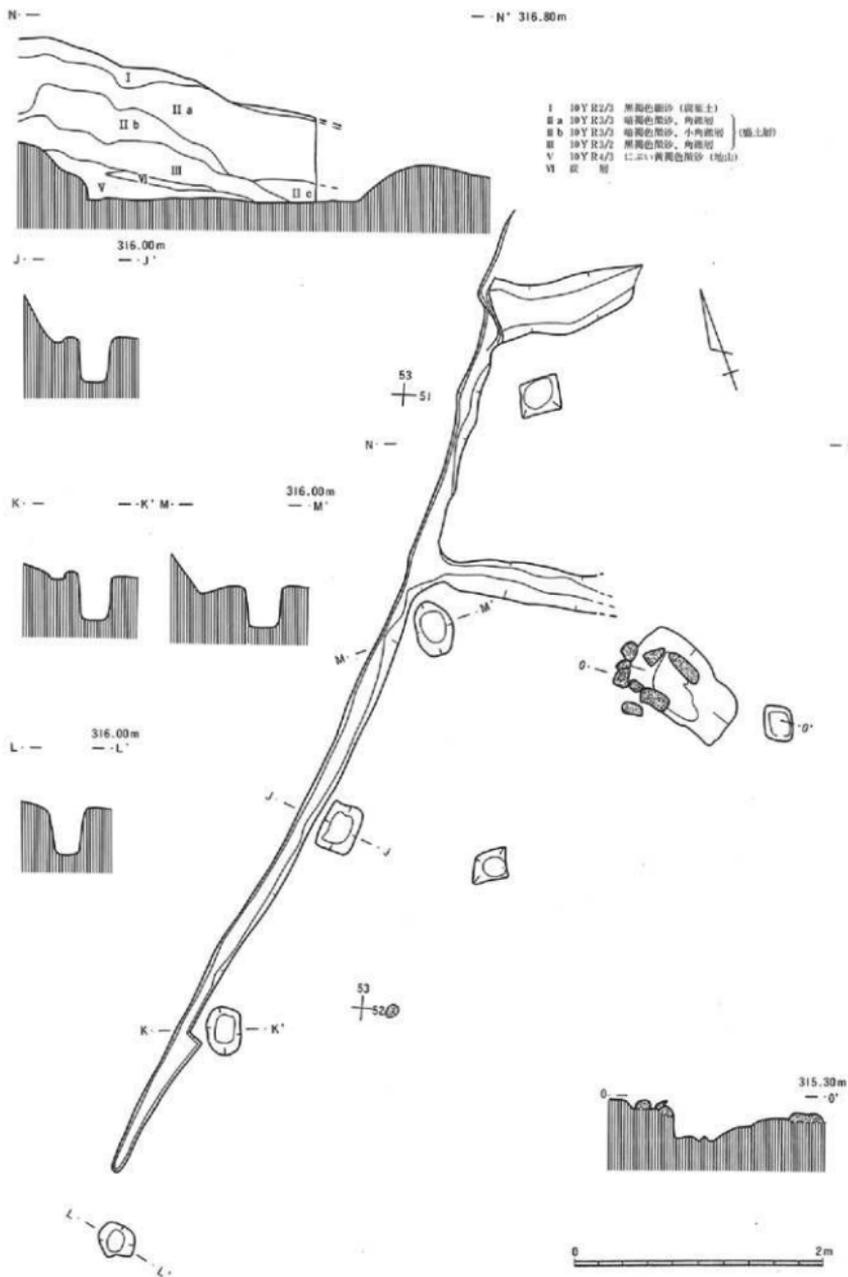


II-II' 319.70m

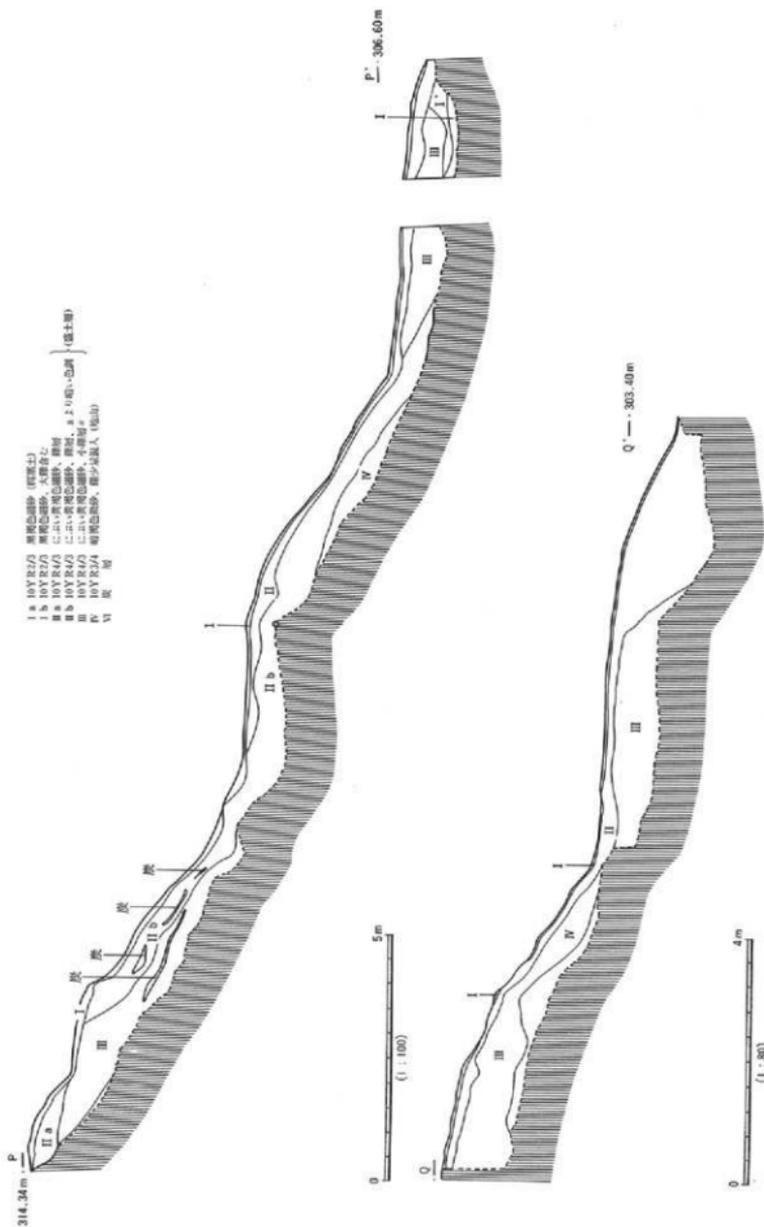


- I 10% 灰砂 用埋込層砂 (硬粘土)
- II 10% 灰砂 用埋込層砂、厚木多量に含む (硬土層)
- III 10% 灰砂 用埋込層砂、厚木少量に含む (硬土層)
- IV 10% 灰砂 用埋込層砂、厚木少量に含む (硬土層)

第13図 1号平場 基本層序 (S=1:80)

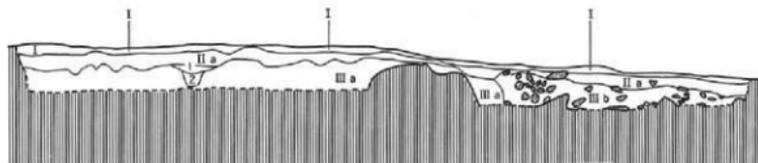


第14图 1号平场 SD49·EP50~55·SK56 平·断面图 (S=1:40)



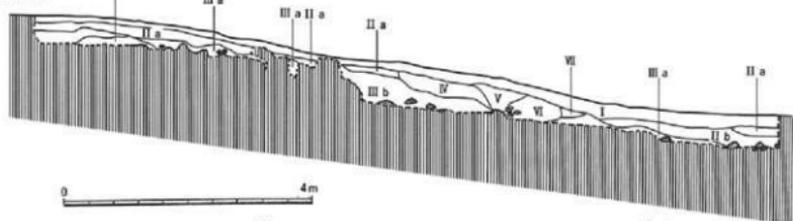
第15图 2~4号平场·4号~5号平场土层断面图 (S=1:100·1:80)

S
296.00m



S'

R
296.50m



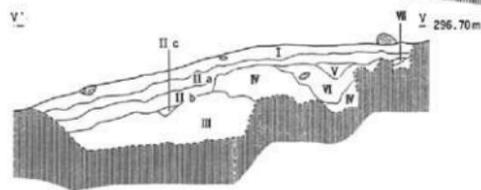
R'



V'

- I 10Y R2/3 黄褐色细砂 (硬粘土)
- II a 10Y R3/3 暗褐色细砂
- II b 10Y R2/3 暗褐色细砂, 质味全帯びる
- III a 10Y R2/6 黄褐色细砂, 质味入
- III b 10Y R2/6 黄褐色细砂, 质味入
- III c 10Y R2/6 黄褐色细砂, 小质味入
- IV 10Y R4/3 红土・黄褐色细砂
- V 10Y R2/3 暗褐色细砂
- VI 10Y R2/3 暗褐色细砂
- VII 10Y R2/3 暗褐色细砂
- 1 10Y R4/3 红土・黄褐色细砂 (pH)
- 2 10Y R2/4 暗褐色细砂

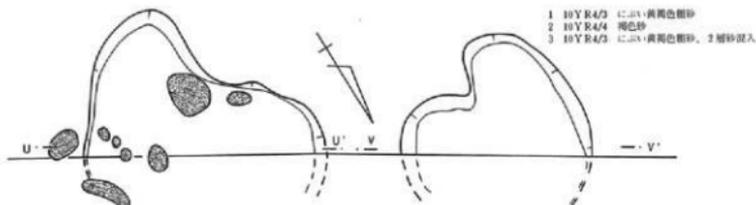
地山



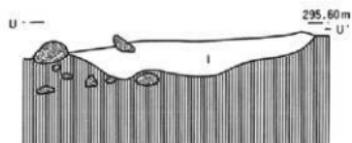
W Y 296.70m

T

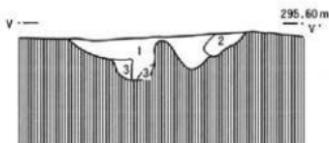
T' 296.00m



- 1 10Y R4/3 红土・黄褐色细砂
- 2 10Y R4/4 暗褐色细砂
- 3 10Y R4/3 红土・黄褐色细砂, 2層砂混入



295.60m



295.60m



第16图 7号平場基本層序 (S=1:80) SK10・14土坑 平・断面図 (S=1:40)

【堀切り】

位置：51-52~53G 規模：長さ9m、深さ4m 断面形：鍋底形
 出土遺物：磁器碗（第17図2）酒杯（同図3）碗（21）古銭など

【溝跡】

SD49 位置：52~53-50~52G 規模：長さ8.5m、幅0.2m、深さ0.06m 断面形：箱形 出土遺物：なし

【炉跡】

EL56 位置：53-51G 規模：長さ0.9m、幅0.5m、深さ0.3m 平面形：隅丸方形 出土遺物：なし

【柱穴】

EP50 位置：52-52G 規模：長軸0.3m、短軸0.26m、深さ0.36m 平面形：不整形 出土遺物：なし

EP51 位置：52-52G 規模：長軸0.4m、短軸0.26m、深さ0.36m 平面形：隅丸方形、出土遺物：なし

EP52 位置：52-51G 規模：長軸0.4m、短軸0.3m、深さ0.36m 平面形：長方形 出土遺物：なし

EP53 位置：53-51G 規模：長軸0.44m、短軸0.3m、深さ0.3m 平面形：楕円形 出土遺物：なし

EP54 位置：53-50G 規模：長軸0.32m、短軸0.3m、深さ不明 平面形：菱形 出土遺物：なし

EP55 位置：53-51G 規模：長軸0.4m、短軸0.3m、深さ不明 平面形：楕円形 出土遺物：なし

【土坑】

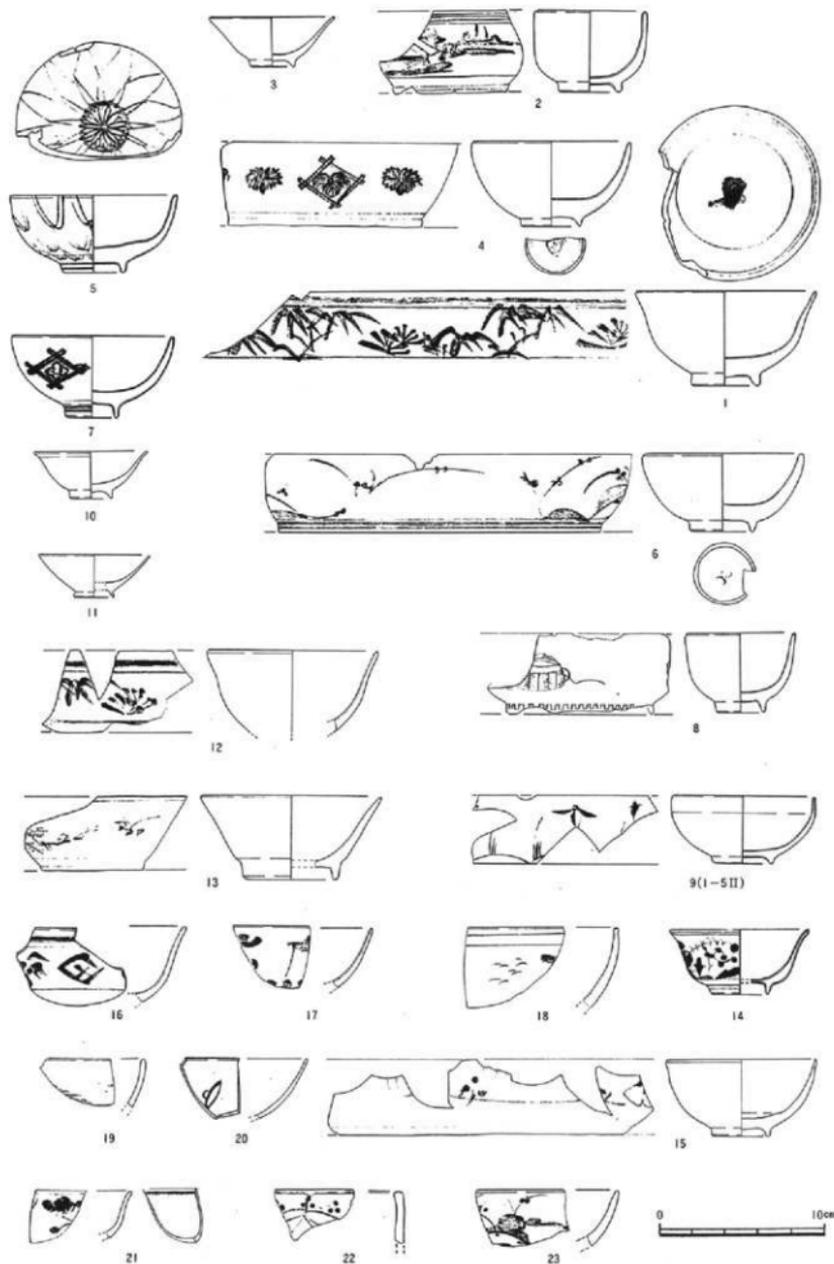
SK10 位置：62-52G 規模：長軸1.4m、短軸不明、深さ0.36m、平面形：不整形 出土遺物：なし

SK14 位置：63-52G 規模：長軸2m、短軸不明、深さ0.3m 平面形：不整形 出土遺物：なし

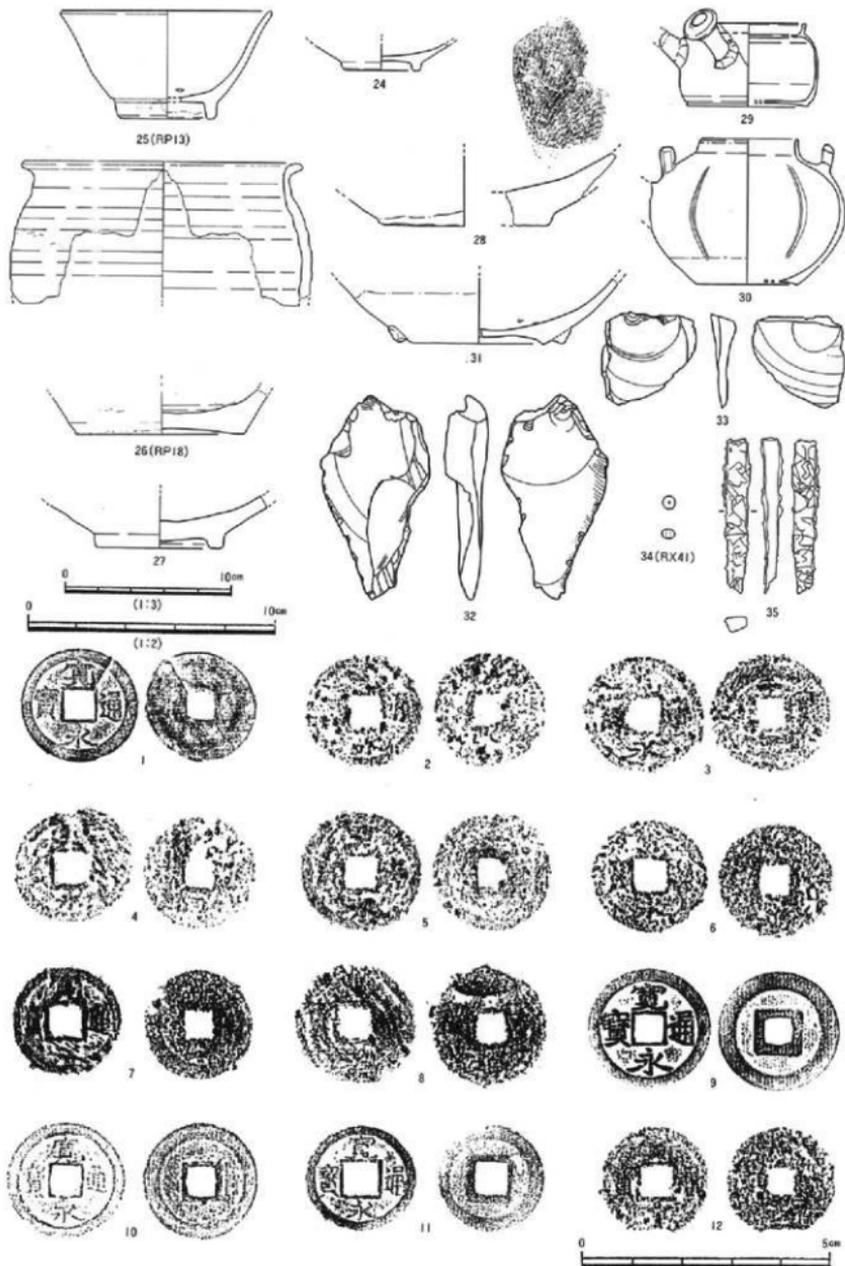
(2) 遺物（第11図～21図）

遺物のほとんどは表土からの出土であるが、トレンチ掘り下げ中に盛土中からの出土が若干見られた。時期は近世後期が主体である。以下主なものを説明したい。

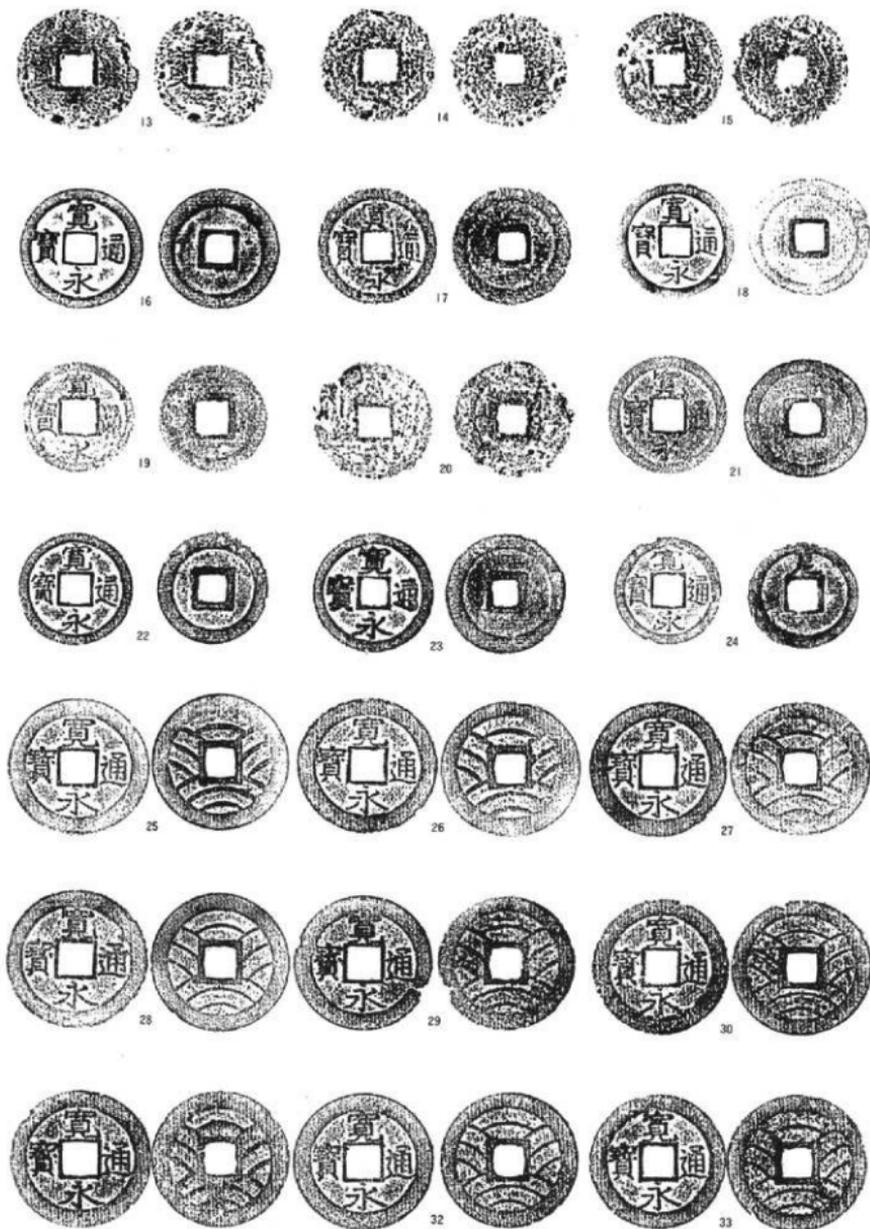
磁器（第17図）：1は磁器碗である。口縁部や体部の二重罫線、見込みのコンニャク判のワンポイントなど一応作法は守っているものの、見込み中央の目跡が五つあるなど肥前産には見られない要因があることなどから、在地産の可能性が高いと考えられる。12や16なども文様は異なるが、器形や胎土等が類似することから同じ窯で焼かれたものと考えられる。時期は19世紀第2四半期以降と考えたい。14は瀬戸美濃産の碗である。時期は19世紀第2



第17回 出土遺物1 (S=1:3)

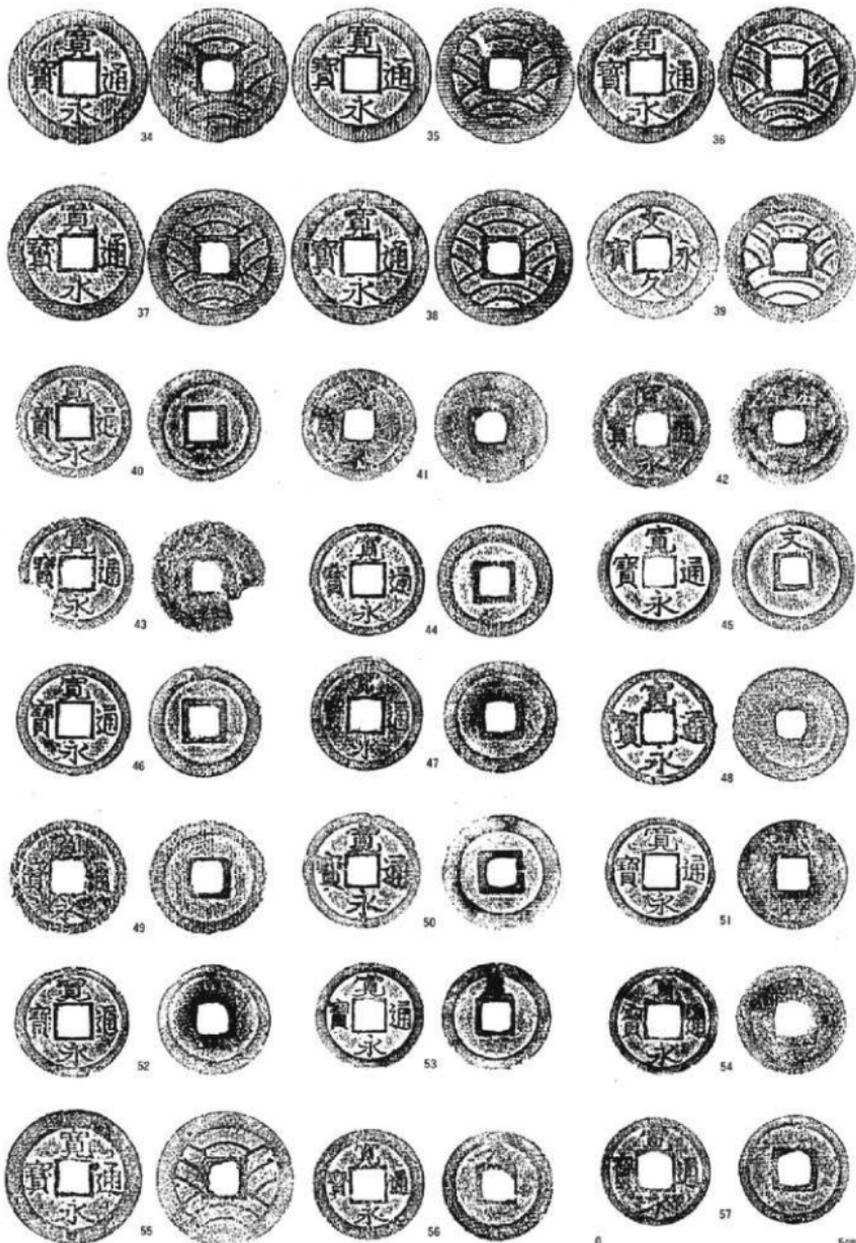


第18図 出土遺物 2 (陶磁器はS=1:3、石器はS=1:2、古銭はS=1:1)

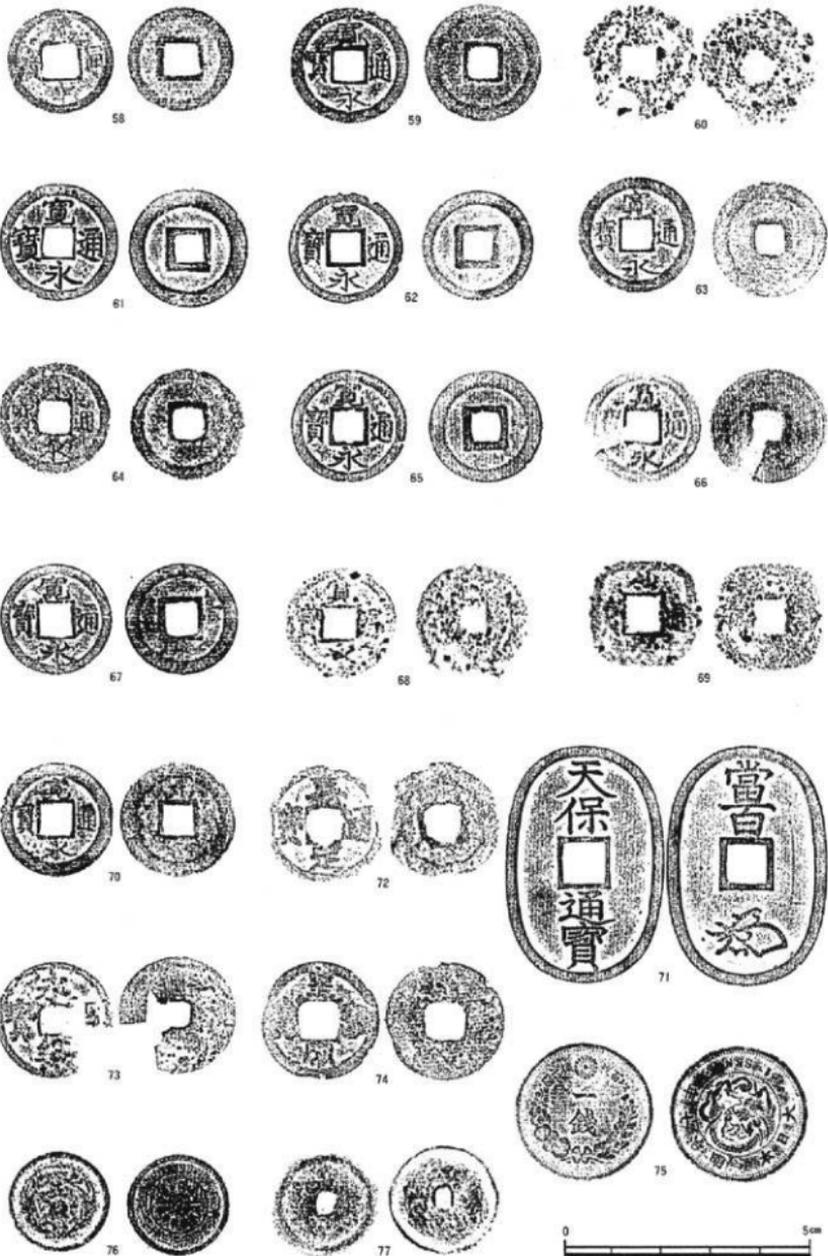


0 5cm

第18图 出土遺物3 (S=1:1)



第20回 出土遺物 4 (S=1:1)



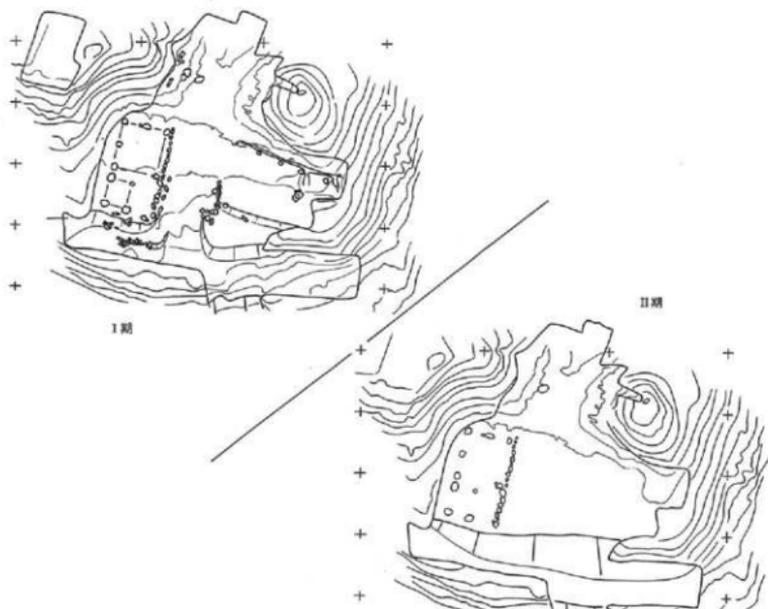
第21回 出土遺物 5 (S=1:1)

四半期頃から幕末と考えられる。2～9・15は肥前産のくらわんか茶碗である。15は見込み蛇ノ目軸割ぎが認められる。2・8は19世紀第2四半期以降、他は18世紀後半以降と考えられる。22は肥前系の香炉である。口縁部に叩打痕が認められ、灰落としとして使用したものと考えられる。19世紀代と考えられる。

陶器(第18図):25は産地不明の碗である。磁器質であるが灰釉のようにも見受けられ陶器と分類した。見込みに目積み痕が認められる。26は口縁と底部の資料である。小壺である。海鼠軸で大宝寺焼と考えられる。29は急須である。産地は不明である。時期は幕末～明治初期と考えられる。30は青土瓶である。相馬産か。19世紀前半と考えられる。

その他(第18図):32・33は石器剥片である。34はガラス製の数珠玉である。

古銭(第18図～21図):古寛永 明暦6(1656)年まで鋳造。19、48、61など。新寛永 古寛永以降の鋳造。今回の出土古銭のほとんどを占める。45は寛文8年(1668)鋳造の背に「文」の一字が認められる所謂「文銭」。24は背に「足」の一字があり、下野足尾銅山で寛保元(1741)年鋳造されたもの。56は背に「元」の一字、同じく寛保元年に摂津大阪で鋳造されたもの。25～38は背に波紋のある「波銭」である。材質はなお検討を要する。その他文久永楽、仙台通寶、天保通寶などが出土している。渡来銭としては72嘉定通寶(南宋:初鋳年1208年)、73永楽通寶(明:初鋳年1408年)、74皇宋通寶(北宋:初鋳年1038年)が出土しているが模鋳銭の可能性が高い。



第22図 1号平場遺構変遷図(S=1:400)

表1 横嶋橋跡出土遺物観察表

種別 No.	器形 種別	出土地区	出土遺構	計測値 (mm)				胎土 色	文様	釉薬		焼成 地	備考	図版	
				口径	底径	器高	器厚			種類	色調				厚
1	磁器 碗	52-53-I		107	38	58	3	7.5Y8/1灰白	良	竹文	石灰透明普通	良	在地系	RP30 胎土中に鉄屑を含む	5
2	磁器 碗	51-53-I		66	34	50	32	N8/0灰白	良	山水文?	石灰透明普通	良	肥前系	RP31	5
3	磁器 鉢	51-53-I		75	21	39.5	2	N8/0灰白	良		石灰透明薄	良	肥前系	RP32	5
4	磁器 碗	55-51-II		94	34	52.3	4.5	N7/0灰白	良		石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	5
5	磁器 碗	55-51-II		100	35	47.5	3.5	N7/0灰白	良	二重縄目文	石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	5
6	磁器 碗	55-51-II		94	37	48	6	N7/0灰白	良	草花文	石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	5
7	磁器 碗	55-51-II		97	31	50	5	N7/0灰白	良		石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	5
8	磁器 碗	-----	2号平場	64	28	49	3.5	N7/0灰白	良	きんちやく?	石灰透明普通	良	肥前系		5
9	磁器 碗	55-51-II		84	34	41.5	3	N7/0灰白	良		石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	5
10	磁器 蓋	54-52-I		68	24	29	2	N7/0灰白	良		石灰透明薄	良		5	
11	磁器 蓋	52-53-I		67	24	26	1.8	N7/0灰白	良		石灰透明薄	良		5	
12	磁器 碗	53-52-I		102		(50)	3.5	7.5Y8/1灰白	良	竹文	石灰透明普通	良	在地系?	胎土中に鉄屑を含む	7
13	磁器 碗	55-52-トレ		108	53.5	51.3	4.3	N7/0灰白	良	梅花文	石灰透明普通	良		5	
14	磁器 碗	55-52-トレ		82	32.5	40	3	N7/0灰白	良	草花文?	石灰透明普通	良	脚土剥離	6	
15	磁器 碗	8トレ		89	34	47	3.5	5Y8/1灰白	良	草花文?	石灰透明普通	良	肥前系	見込絞目地ハズ	7
16	磁器 碗	52-53-I		--	--	(47)	3.5	7.5Y8/1灰白	良	菱形文?	石灰透明普通	良	在地系?	7	
17	磁器 碗	52-52-I		--	--	(38)	3.3	N7/0灰白	良	草花文	石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか?	7
18	磁器 碗	9トレ		--	--	(49)	4.5	N7/0灰白	良		石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか?	7
19	磁器 碗	9トレ		--	--	(30)	3	N7/0灰白	良		石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか?	7
20	磁器 碗	55-52	9トレ	--	--	(36.5)	2.5	2.5Y8/2灰白	良	杓文?	透明普通	良		7	
21	磁器 碗	51-53		--	--	(29)	2.5	N7/0灰白	良	草花文	石灰透明普通	良	脚土剥離	7	
22	磁器 香炉	55-51-II		--	--	(31.3)	4.5	N7/0灰白	良	柳文?	石灰透明普通	良	肥前系	口縁に明り割れ	7
23	磁器 碗	55-51-II		--	--	(34.3)	4.5	N7/0灰白	良	草花文	石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか?	7
24	陶器 ?	52-53		42	(17)	3	2.5Y8/3黄	良		透明普通	良	京焼	RP34 高台無軸	7	
25	磁器? 鉢	52-53-I		125	53	66	4.5	5Y8/1灰白	良		灰軸透明普通	良		RP13	6
26	陶器 甕	53-54-I		163		(82.5) (27)	6 8	5Y5/1灰	良		海鼠 欠形普通	良	大空寺焼	RP18	6
27	陶器 ?	9トレ	--	73	(32)	8.5	黄緑	削取		にぶい黄緑	良			7	
28	陶器 甕	9トレ	--	(100)	(44)	16	1.5Y8/4			にぶい黄緑	良			7	
29	陶器 魚形	52-52-I		(67)	(71)	51 59	1	2.5TR7/2 灰黄	良		薄	良	石古?	RP33	6
30	陶器 土瓶	53-54-I 51-53-II		53	(61)	(89)	3	2.5Y8/3黄	良		薄	良	相馬?	RP18	6
31	陶器 ?	53-54-I		--	(81)	(40)	5	2.5Y4/1黄灰	良		薄	良		RP18	7

種別	出土地区	最大長	最大巾	厚	重量
32 石器剥片	52-56	79	41	17	30.50
33 石器剥片	RQ100	38	35	10	6.24

材質	種別	出土地区	最大長	最大幅	重量g	備考
34 ガラス	数珠玉	52-53	7.35	5.85	0.71	RX41
35 鉄	釘	53-51-II	94	16	35.33	

表2 横嶋橋跡出土古銭(寛永通寶)計測表

番号	出土地点	縁径mm	外径mm	内径mm	穴径mm	厚さmm	重量g	備考
1	52-53	22.5	18.5	8.2	6.0	0.8	2.28	
2	#	21.6	18.4	7.8	6.0	1.9	2.93	さび
3	#	23.2	17.9	8.4	6.3	1.8	3.33	千、さび
4	#	22.4	18.4	8.9	7.0	1.9	--	さび
5	#	23.0	18.8	7.9	6.3	1.9	3.31	さび
6	#	22.2	18.4	7.6	6.9	1.8	2.56	さび
7	#	20.5	18.4	7.0	6.2	1.8	2.68	さび
8	#	23.0	19.9	7.8	6.2	1.7	3.59	さび
9	#	24.2	19.4	6.9	6.0	1.2	3.36	
10	#	23.2	18.6	6.7	6.0	1.0	2.14	
11	#	21.0	18.0	7.8	6.9	0.9	1.33	
12	#	21.6	19.0	7.8	6.5	1.4	2.54	さび
13	#	23.8	20.4	8.2	6.4	1.4	2.53	さび
14	#	23.1	19.2	8.6	6.8	1.4	2.90	さび
15	#	22.4	18.6	8	6.2	2.2	4.39	さび
16	#	23.6	19.2	6.7	6.2	1.1	3.12	
17	#	22.9	19	6.9	6.0	1.2	3.13	
18	#	23.4	19.5	6.8	6.2	1.1	3.20	
19	#	21.5	18.7	7.6	6.8	1.1	1.72	
20	#	22.4	19.0	8.0	6.4	1.3	2.76	さび
21	#	23.9	19.5	7.5	6.6	0.9	2.42	足(欠)
22		21.0	18.1	6.6	6.2	1.0	2.24	
23		23.5	19.0	6.4	5.5	1.1	3.68	
24	52-53	21.4	18	7	6.2	0.9	1.98	足
25	#	27.7	21.2	8	6.8	1.2	5.27	11波紋
26	#	27.5	21	7.8	6.8	1.1	4.67	11波紋
27	#	27.3	21.2	7.8	6.3	1.1	4.19	11波紋
28	#	27.5	20.6	8	6.5	1.2	4.15	11波紋
29	#	28.0	21	7.9	6.8	1.4	4.50	11波紋
30	#	27.8	21	7.9	6.7	1.2	5.08	11波紋
31	#	27.4	20.8	8.2	7.0	1.1	3.84	11波紋
32	#	28.0	21.5	8.3	7.1	1.1	4.86	11波紋
33	#	27.4	20.8	8.3	6.8	1.2	5.35	11波紋
34	#	27.5	21.2	7.8	6.6	1.3	4.54	11波紋
35	#	27.8	21.2	8.2	7.2	0.9	4.90	11波紋
36	#	27.8	21	8	7.0	1.2	3.78	11波紋
37	#	27.4	21	7.8	6.4	1.4	4.27	11波紋
38	#	27.7	21.7	7.9	6.8	1.2	4.58	11波紋
39	#	26.3	19.7	8	6.7	1.0	3.18	文久永宝(11波紋)
40	#	22.6	18.7	7.6	6.2	1.1	2.82	
41	52-53	22.4	18.5	7.2	6.2	0.9	2.01	
42	#	23.8	20.8	7.7	6.4	0.9	1.85	
43	#	22.8	19.0	7.4	6.2	1.0	1.85	
44	#	22.7	19.8	6.7	6.3	1.0	2.59	
45	#	24.4	20.4	7	6.0	1.4	3.81	文
46	#	22.3	18.5	6.5	7.4	1.0	2.49	
47	#	22.2	18.2	6.6	7.6	0.9	2.16	
48	53-54	22.4	19.0	7.0	6.0	1.1	2.78	
49	#	22.1	18.7	7.3	6.4	1.1	2.08	
50	53-53	23.0	19.0	6.6	6.2	1.1	2.77	
51		21.8	18.5	7.2	6.5	1.0	2.31	
52	53-54	21.8	19.2	7.7	6.7	1.0	2.50	
53		21.5	18.2	7.7	7.0	0.9	1.72	
54	52-54	21.0	18.2	6.5	7.0	0.9	1.72	
55	52-51-I	27.0	20.5	7.5	6.0	1.0	3.83	11波紋
56	52-52-I	21.9	17.3	7.6	6.9	1.1	2.37	元
57	52-52-I	22.0	18.6	7.9	7.0	0.9	2.12	
58	52-53-I	21.2	17.6	8	7.3	0.9	1.63	
59	52-53-II下	23.2	18.6	7.2	6.1	0.9	2.18	
60	52-53-II下	22.4	19.5	8.3	6.8	1.8	3.42	さび
61	53-53-I	23.8	19.2	6.8	6.1	1.0	2.82	
62	53-52-I	22.5	18.8	7.7	6.0	1.0	2.44	
63	54-53-II下	22.8	18.6	7	6.0	1.1	2.36	
64	54-54-I	22.0	18.3	7.3	6.6	1.0	1.97	
65	XO-1	22.9	18.8	7.7	6.2	1.1	2.26	
66	XO-2	22.8	18.6	7.5	6.5	0.9	1.98	
67	7平場-1	22.5	18.8	7.6	6.7	0.9	2.27	
68	7平場-2	22.9	18.8	7.8	6.6	1.0	2.18	
69	7平場	22.0	18.2	7.8	6.7	1.7	4.38	さび
70	52-53	--	--	--	--	2	--	仙台通寶(銀銭)
71	53-54	2.67	49	43.65	8.25	2.65	19.82	天保通寶
73		16.7	23.5	20.15	5.3	1.3	1.43	永源通寶
74	9トレ、55-52	2.5	24.15	19.10	7.5	1.2	2.99	皇宋通寶
72	53-53-I	--	--	--	--	1.25	2.23	嘉定通寶
75	52-53	0.8	27.9	26.2	--	1.65	6.72	11波紋(明治7年)
76		1.4	20.85	18.05	--	1.8	4.31	11波紋(明治51年)
77	52-52	1.9	21.95	18.1	--	1.5	1.96	不明(鉄銭)
	53-52							破片(鉄銭)
	53-54							破片(鉄銭)
	#							破片(鉄銭)
	52-53							破片(鉄銭)

IV 水沢館跡

1. 調査の概要

遺跡の立地する基盤岩はシルト岩で、その上に崩壊堆積物が堆積している。この崩壊堆積物は、調査区付近で約19mの厚さがボーリング調査の結果確認されている。またこの崩壊堆積物はどの部分でも地滑り面となり得る脆いものである。もまれ礫混じりの土砂状を呈する。

(1) 遺跡の層序

水沢館跡では現状で多くの平場や堀状の遺構が認められた。各地区にトレンチを入れて確認したところ以下のである。

1～3号平場では大別すればつぎの4層になる。(I層) 腐葉土層、(II層) 地山を削り出したきた盛土層、(III層) 盛土層下の旧表土層、(IV層) 地山層である。以下少々補足を加えれば、I層は厚いところで25cm程であるが、浅いところでは5cmにも満たない。この層からほとんどの遺物が出土している。II層は1号平場など上位の平場を削り出した際に出た黄褐色土微砂層と礫で構成される。III層は2～3号平場西側でのみ認められる。山形大学の阿子島功氏がこの層より出土した炭化物を放射性炭素年代測定の実験に出された結果、2,740年前という値を得ている。IV層はかなりの自然の土の動きが認められる。

東側斜面では人為的堆積は一切認められない。よって基本的にはI層とIV層で構成される。東側鞍部、西側鞍部、北側鞍部でも同様である。東側鞍部の最下層より小形のガラス瓶が出土している。

(2) 遺構と遺物の分布

明確に人為的なものと判断されるのは西向き壁を配置する1号から3号までの平場である。1号平場は削り出しの平場である。整地は行っていない。2号平場は盛土を行って平場を造成している。3号平場も同様である。

東側斜面には人為的な平場は認められない。現状では階段状の平場が確認できるが、トレンチ調査の結果人為的堆積は認められなかった。

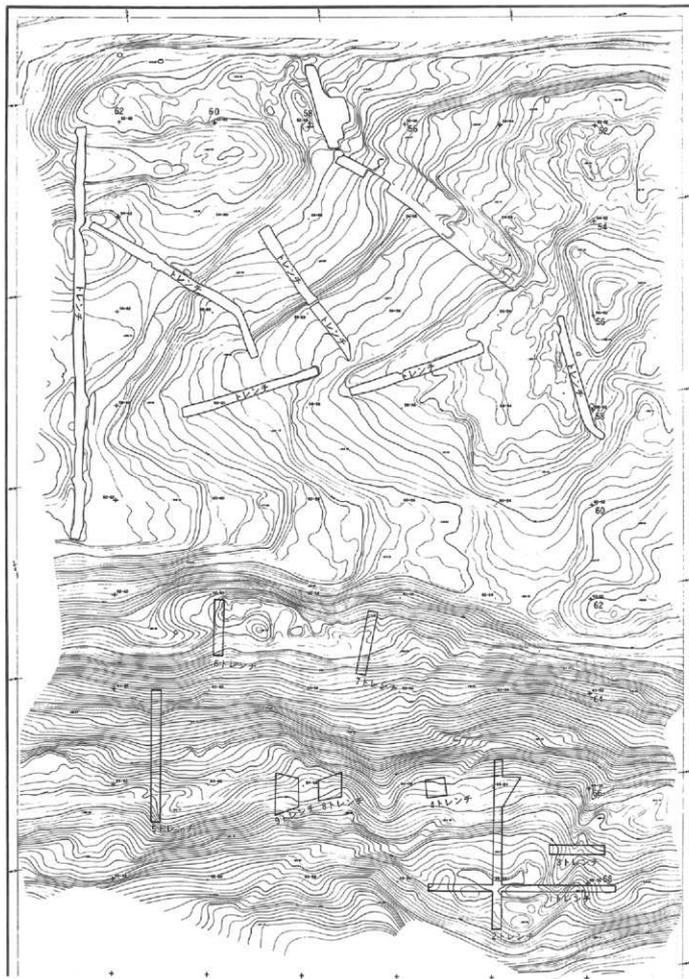
西側には空堀状の鞍部が確認できたが、人為的に掘り込んでいる様子は認められなかった。またすぐ西側に接して位置する土塁状の遺構には当初土塁と想定していたため、天面に柵列の存在等が考えられたので、柱穴の検出に努めたが確認されなかった。

各平場内で土坑や柱穴などの遺構が検出されたのは1号平場と2号平場、北側鞍部のみである。しかしいずれもその量は少なく良好な状態ではない。その分布も不規則でまばらである。2～3号平場西側には一部石積みが見られる。また3号平場～にも簡単なものが見られ計2カ所石積みが行われている。

遺物は1号平場から縄文時代の縄状石器が、ほかの地区ではまばらに近世以降の陶磁器片が少量出土している。出土層位は大半がI層であり、時期幅も認められる。整地層中や石積みの裏込めからは遺物は出土していない。



第23図 水沢館跡概要図 (S = 1 : 3,000)

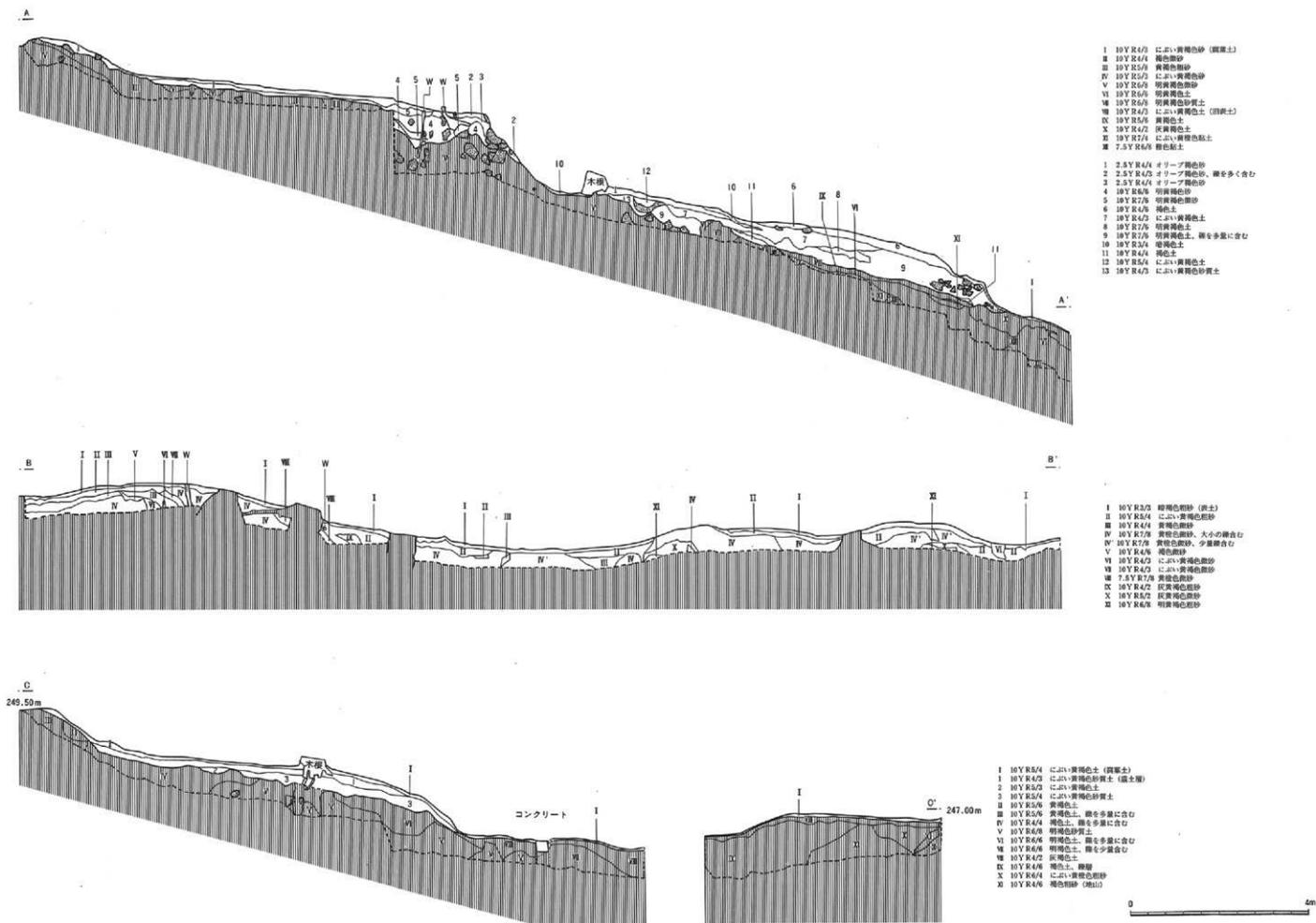


遺構配置図 (S=1:400)



地形図 (S=1:400)





- I 10Y R4/7 にごい黄褐色砂 (黄壤土)
- II 10Y R4/4 褐色砂
- III 10Y R2/6 黄褐色砂
- IV 10Y R2/3 にごい黄褐色砂
- V 10Y R2/6 明黄褐色砂
- VI 10Y R2/6 黄褐色土
- VII 10Y R2/6 明黄褐色砂
- VIII 10Y R2/6 明黄褐色砂
- IX 10Y R2/6 黄褐色土 (団粒土)
- X 10Y R2/6 黄褐色土
- XI 10Y R2/6 黄褐色土
- XII 10Y R2/6 にごい黄褐色粘土
- XIII 10Y R2/6 褐色粘土
- 1 2.5Y R4/6 オリーブ褐色砂
- 2 2.5Y R4/2 オリーブ褐色砂、礫を多く含む
- 3 2.5Y R4/6 オリーブ褐色砂
- 4 10Y R2/6 明黄褐色砂
- 5 10Y R2/6 明黄褐色砂
- 6 10Y R2/6 褐色土
- 7 10Y R2/6 にごい黄褐色土
- 8 10Y R2/6 明黄褐色土
- 9 10Y R2/6 明黄褐色土、礫を多量に含む
- 10 10Y R2/6 褐色土
- 11 10Y R4/4 褐色土
- 12 10Y R2/6 にごい黄褐色土
- 13 10Y R4/3 にごい黄褐色砂質土

- I 10Y R2/2 暗褐色砂 (黄土)
- II 10Y R2/4 にごい黄褐色砂
- III 10Y R4/4 黄褐色砂
- IV 10Y R2/6 黄褐色砂、大小の礫を含む
- V 10Y R2/6 黄褐色砂、少量の礫を含む
- VI 10Y R4/6 褐色砂
- VII 10Y R2/6 にごい黄褐色砂
- VIII 10Y R4/3 にごい黄褐色砂
- IX 10Y R2/6 黄褐色土
- X 10Y R2/2 黄褐色砂
- XI 10Y R2/2 明黄褐色砂
- XII 10Y R2/6 明黄褐色砂

- I 10Y R5/4 にごい黄褐色土 (黄壤土)
- 1 10Y R4/2 にごい黄褐色砂質土 (団土層)
- 2 10Y R5/2 にごい黄褐色土
- 3 10Y R5/4 にごい黄褐色砂質土
- II 10Y R5/6 黄褐色土
- III 10Y R2/6 黄褐色土、礫を多量に含む
- IV 10Y R4/4 褐色土、礫を多量に含む
- V 10Y R2/6 暗褐色砂
- VI 10Y R2/6 明褐色土、礫を多量に含む
- VII 10Y R2/6 明褐色土、礫を多量に含む
- VIII 10Y R4/6 褐色土
- IX 10Y R4/6 褐色土、礫
- X 10Y R4/4 にごい黄褐色砂
- XI 10Y R4/6 褐色砂 (団粒)

第25図 1号～3号平場 A-A'・B-B'・C-C'土層断面図 (S=1:80)

2. 遺構と遺物

(1) 遺構

本館跡で検出された遺構は平場3、土坑2、柱穴5、その他2、石積み2である。以下代表的なものについて述べる。また本報告書では多くの断面図を掲載したが、この中で人為的な堆積を確認できるのはわずかであり、ほとんどが自然堆積、特に地滑りによる作用が多きいものと考えられる。

【平場】

調査前に東側斜面に約20カ所の平場を確認したが、トレンチを入れた結果人為的な削平、盛土といった造成は見られず、表土を除去し柱穴などの遺構の検出に努めたが確認されなかった。人為的造成が認められたのは山麓部の1～3号平場のみである。

平場から検出された遺構は少ない。柵列などの遺構が想定されたが検出されなかった。基本的に造成方法は地山削り出しによる整地・盛土によるが、その造成順は1号平場削り出し→2号平場土盛り→3号平場造成→2号平場造成と考えられる。2号平場は削り出しを行っていない。3号平場盛土下層に旧表土が残存していることもこのことを証明していると言えよう。この旧表土に含まれる炭化物を山形大学の阿子島 功氏が放射性炭素年代測定を実施したところ、約2,740年前という年代を得ているということで、時期は縄文時代晩期頃に相当する。

各平場とも整地面は水平となるよう努めている。法面については全体的に西側に急で南ないし東側は甘い。1号平場の削り出しは甘く、2～3号平場に比べると必ずしも平坦面を全面的に確保しようとはしていないようで、造成の不完全さが目立つ。

1号平場 位置：55～59-56～57G 広さ：東西25m、南北25m 造成方法：地山削り出し 諸遺構：なし 出土遺物：磁器碗(第34図3、4)皿(第35図12)陶器鉢(同図27)

2号平場 位置：54～58-52～60G 広さ：東西9m、南北50m 造成方法：盛土 諸遺構：SP50、SK54、SP55、1号石積み他 出土遺物：陶器鉢(第35図14)

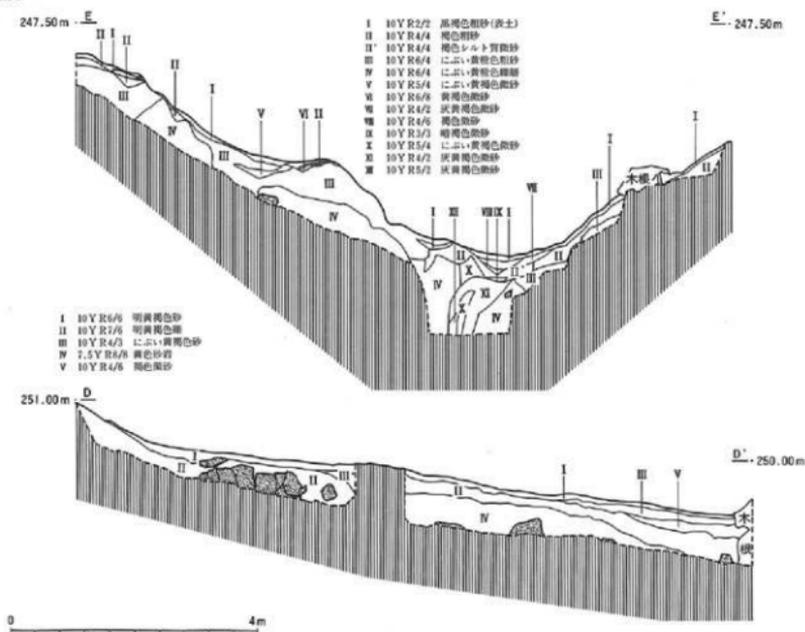
3号平場 位置：52～56-56～59G 広さ：東西9m、南北25m 造成方法：盛土 諸遺構：なし 出土遺物：磁器碗(第34図1、9)

【石積み】

1号・2号石積みとも、いずれも平場法面の一部を補強する目的で構築されたものと考えられる。積み方は野面積みである。石積みの使用箇所については特に重要なポイントに限るのではなく、地形の凹みに合わせているようである。旧地形が周辺より一段と低い部分と推定され、法面を維持するには盛土だけでは不十分と判断した結果であろう。それぞれについて使用している石材は1号石積みは河原石を使用している。2号石積みは現地では採集できる山石を使用している。

1号石積み 位置：54～55-57～58G 規模：長さ8m、高さ1.1m
主軸方位：N-20°-W 出土遺物：なし

2号石積み 位置：53～54-58～59G 規模：長さ6m、高さ1m



第26図 1号平場D-D'・西側鞍部E-E'土層断面図 (S=1:80)

主軸方位：N-29°-W 出土遺物：なし

【柱 穴】

平面形の規模の小ささから便宜上柱穴とした。ただし深さは浅いものが多い。

SP50 位置：58-58G 規模：長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.1m 平面形：不整形
出土遺物：石器剥片(第35図24)

SP51 位置：59-51G 規模：長軸0.9m、短軸0.65m、深さ0.28m 平面形：隅丸方形
出土遺物：なし

SP55 位置：55-55G 規模：長軸0.88m、短軸0.6m、深さ0.22m 平面形：不整形
出土遺物：なし

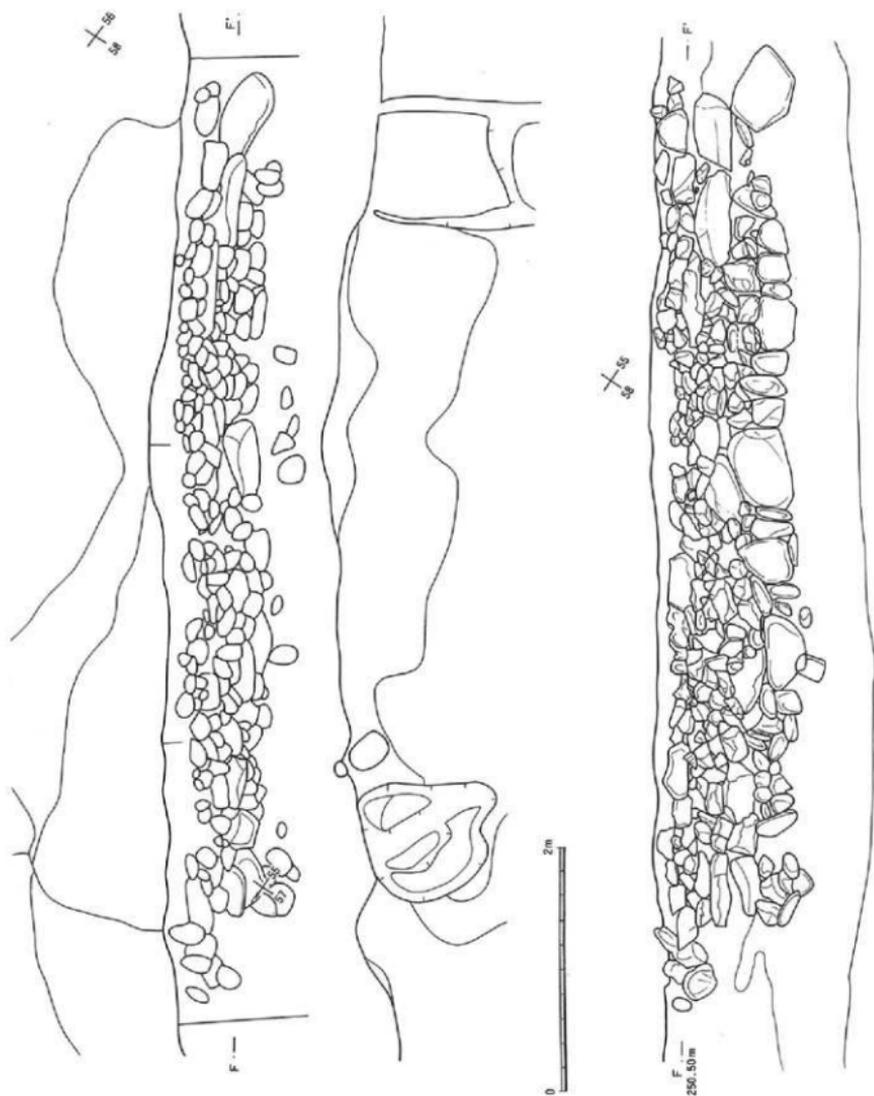
【土 坑】

覆土は単層ないし二層である。自然作用を受けている。出土遺物はない。

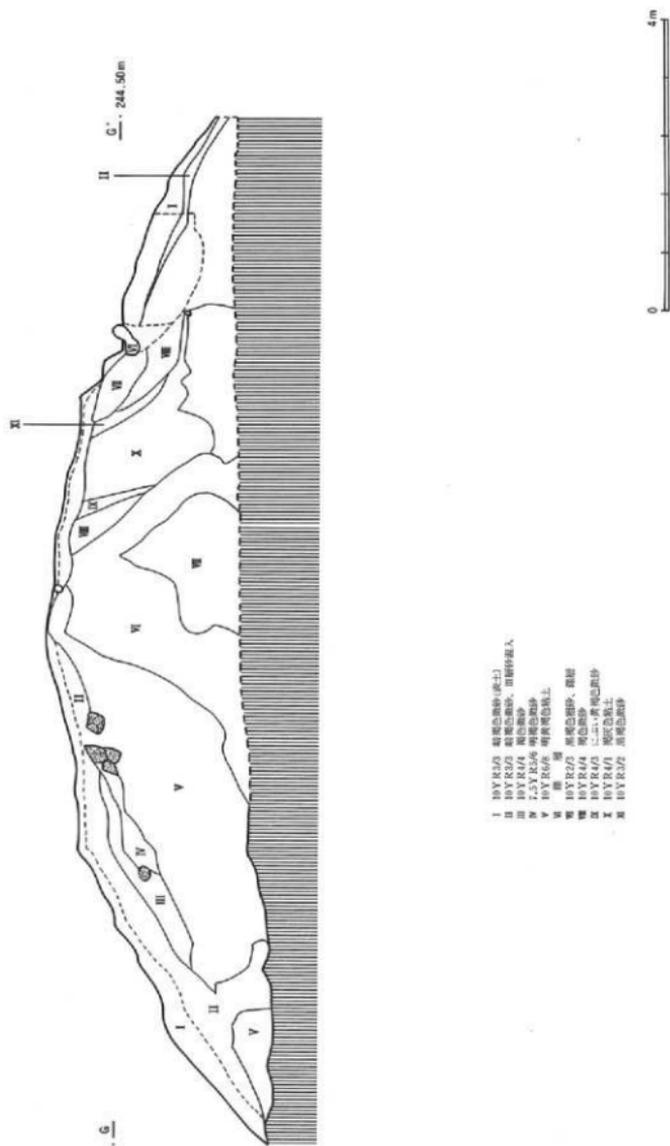
SK54 位置：56-56G 規模：長軸1.95m、短軸1.24m、深さ0.39m、平面形：不整形
出土遺物：なし

(2) 遺 物

遺物は一部を除き表土からの出土である。時期は近世後期～近・現代である。以下主なものを説明したい。



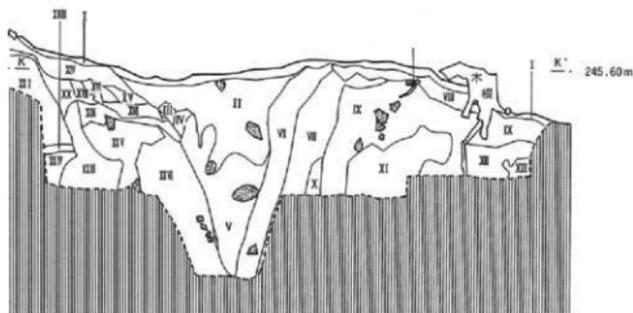
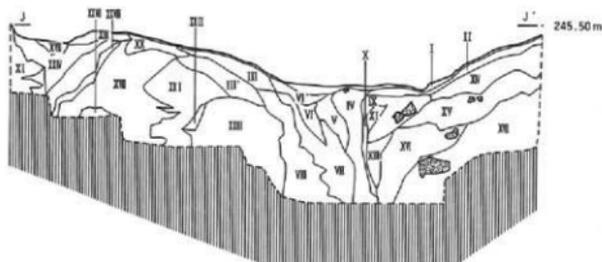
第27図 2号平場 (53, 57~58) G F-F'石積み 平・側面図 (S=1:40)



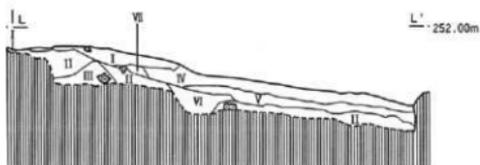
第28圖 (50~52, 60) G G'土層断面圖 (S=1:60)

IV 水沢館跡

- I 10Y R2/3 暗褐色細砂(黄粘土)
- II 10Y R2/2 暗褐色細砂(黄粘土)
- III 10Y R3/5 暗褐色粘土質細砂
- IV 10Y R3/3 暗褐色細砂、赤味強
- V 10Y R3/4 暗褐色粘砂質細砂
- VI 10Y R3/2 紅・黄褐色粘土質砂
- VII 10Y R2/2 暗褐色粘土質細砂
- VIII 10Y R4/6 褐色細砂
- IX 10Y R3/3 暗褐色粘土質細砂
- X 10Y R3/2 灰黄褐色粘砂質
- XI 10Y R4/2 灰黄褐色細砂
- XII 10Y R4/3 紅・黄褐色細砂
- XIII 10Y R3/2 紅・黄褐色粘土
- XIV 10Y R4/2 灰黄褐色細砂
- XV 10Y R4/6 黄褐色細砂
- XVI 10Y R4/2 灰黄褐色粘土質細砂
- XVII 10Y R6/6 明黄褐色細砂
- XVIII 10Y R6/6 明黄褐色細砂、礫多量に含む
- XIX 10Y R2/3 暗褐色細砂
- XX 10Y R2/3 暗褐色細砂
- XXI 10Y R2/2 暗褐色細砂
- XXII 10Y R5/6 黄褐色細砂
- XXIII 10Y R4/2 灰黄褐色
- XXIV 10Y R4/2 灰黄褐色細砂
- XXV 10Y R5/6 黄褐色細砂
- XXVI 10Y R6/2 灰白色細砂
- XXVII 7.5Y R6/6 棕色細砂



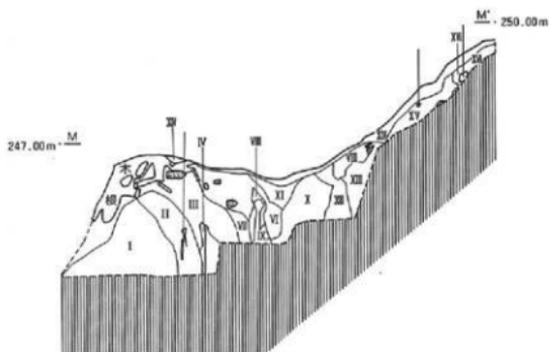
- I 10Y R2/2 暗褐色細砂(黄土)
- II 10Y R4/4 褐色細砂
- III 10Y R6/6 明黄褐色粘土
- IV 10Y R4/4 褐色細砂
- V 10Y R2/6 明黄褐色粘土
- VI 10Y R5/1 灰白色粘土
- VII 10Y R2/2 暗褐色粘土
- VIII 10Y R3/4 暗褐色細砂
- IX 7.5Y R6/6 棕色粘土
- X 礫
- XI 10Y R2/6 明黄褐色粘土
- XII 10Y R2/4 紅・黄褐色粘土
- XIII 10Y R2/3 暗褐色細砂
- XX 10Y R3/4 暗褐色細砂
- XXI 7.5Y R6/6 棕色細砂
- XXII 10Y R5/2 灰黄褐色細砂
- XXIII 10Y R2/2 暗褐色細砂
- XXIV 10Y R4/1 灰白色粘土
- XXV 10Y R2/2 暗褐色細砂
- XXVI 10Y R3/3 暗褐色細砂
- XXVII 10Y R3/2 暗褐色細砂
- XXVIII 10Y R5/3 紅・黄褐色細砂



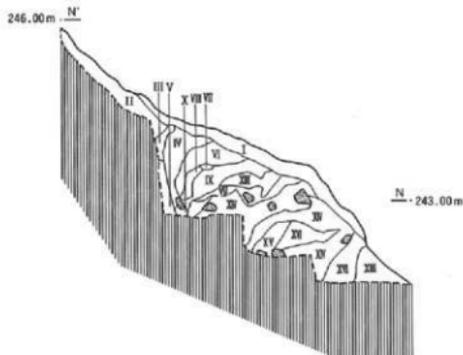
- I 礫
- II 10Y R7/6 黄褐色細砂
- III 10Y R7/6 明黄褐色
- IV 10Y R4/4 褐色細砂
- V 10Y R4/3 紅・黄褐色細砂
- VI 10Y R4/6 褐色細砂
- VII 10Y R7/6 黄褐色細砂、R層混入

0 4m

第30图 西側鞍部 J-J'・K-K'・L-L'土層断面図 (S=1:80)



- I 10Y R5/6 黄褐色細砂
- II 10Y R4/1 褐色細砂
- III 10Y R6/6 明黄褐色細砂
- IV 10Y R7/8 黄褐色砂
- V 10Y R6/3 にごい黄褐色砂
- VI 10Y R3/3 暗褐色砂
- VII 10Y R3/3 暗褐色砂、湿少い
- VIII 7.5Y R7/6 褐色細砂
- IX 10Y R1/1 にごい黄褐色砂
- X 7.5Y R7/6 黄褐色砂
- XI 10Y R3/3 暗褐色砂
- XII 10Y R5/4 にごい黄褐色砂
- XIII 10Y R6/3 にごい黄褐色砂
- XIV 10Y R3/3 暗褐色砂、腐植土を含む
- XV 10Y R4/3 にごい黄褐色砂
- XVI 10Y R4/1 褐色砂

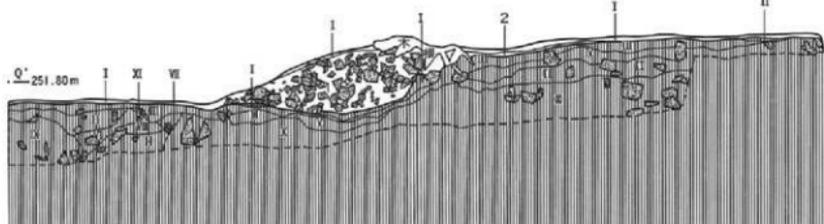


- I 10Y R3/3 暗褐色砂
- II 10Y R6/6 明黄褐色細砂
- III 10Y R4/1 褐色細砂
- IV 10Y R5/4 にごい黄褐色細砂
- V 10Y R4/1 褐色細砂
- VI 10Y R6/4 にごい黄褐色細砂
- VII 10Y R6/6 明黄褐色細砂
- VIII 10Y R4/3 にごい黄褐色細砂
- IX 10Y R5/4 にごい黄褐色細砂
- X 10Y R4/1 褐色細砂
- XI 10Y R5/6 黄褐色細砂
- XII 10Y R5/4 にごい黄褐色細砂
- XIII 7.5Y R4/0 オリーブ褐色細砂
- XIV 10Y R6/6 明黄褐色細砂
- XV 5Y R4/1 にごい黄褐色細砂
- XVI 10Y R7/6 明黄褐色砂
- XVII 10Y R6/3 にごい黄褐色細砂
- XVIII 10Y R6/6 明黄褐色細砂

0 4m

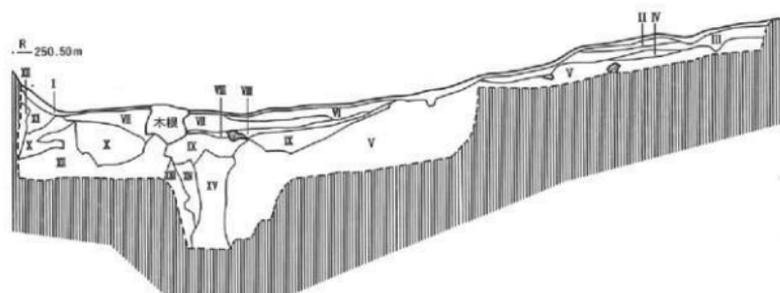
第31图 農道側斜面 M-M'・N'-N'土層断面図 (S=1:80)

Q' - 253.20m



- I 10Y R4/1 上土・黄褐色細砂(黄土)
- II 10Y R7/6 明黄褐色細砂
- III 10Y R5/3 上土・黄褐色細砂
- IV 10Y R6/5 明黄褐色細砂
- V 10Y R4/4 褐色細砂
- VI 10Y R7/5 黄褐色細砂
- VII 10Y R7/4 上土・黄褐色細砂
- VIII 7.5Y R7/6 褐色細砂
- IX 10Y R6/4 上土・黄褐色細砂
- X 10Y R8/8 黄褐色細砂
- XI 10Y R3/6 黄褐色細砂
- 1 10Y R5/4 上土・黄褐色細砂
- 2 10Y R3/2 黄褐色細砂

R' - 251.50m

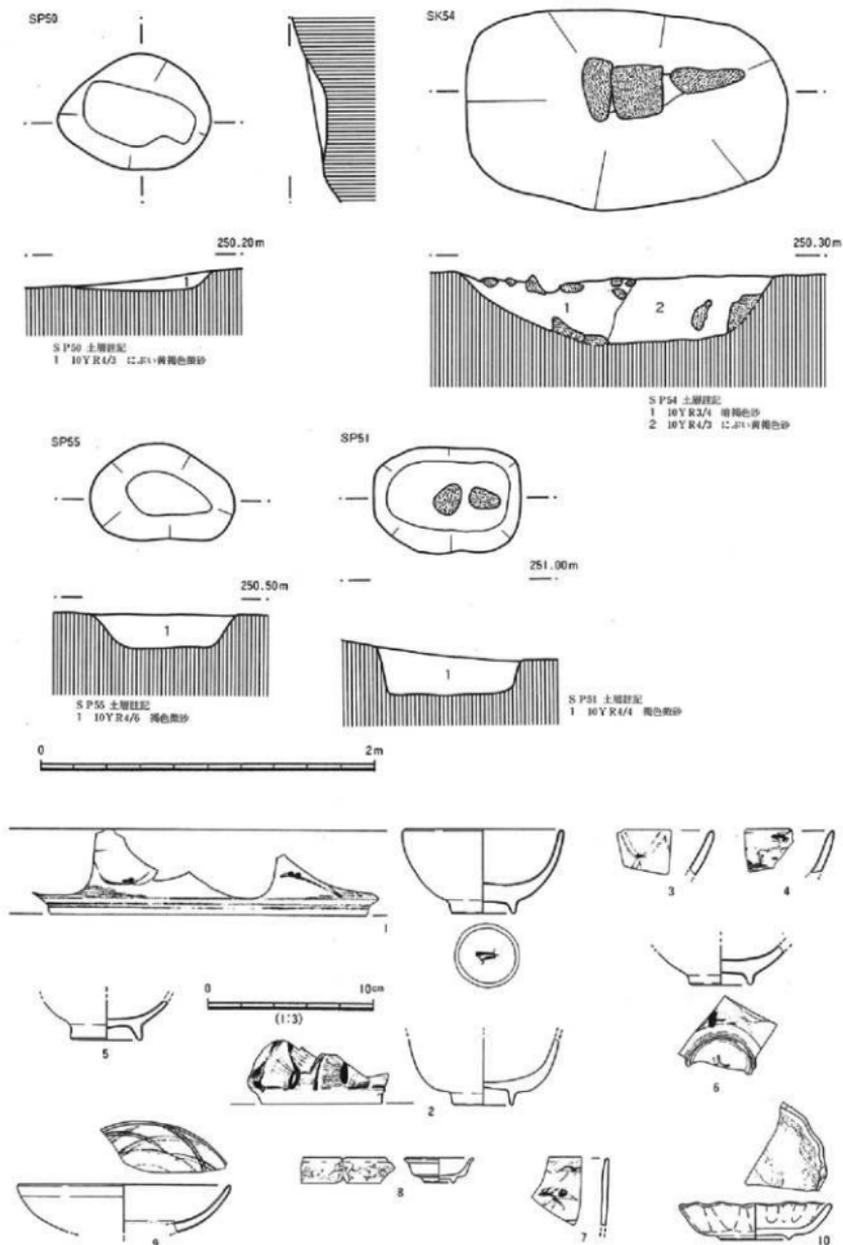


- I 10Y R6/6 明黄褐色細砂
- II 10Y R4/3 褐色細砂
- III 10Y R4/3 上土・黄褐色細砂
- IV 10Y R5/8 黄褐色細砂
- V 10Y R7/6 明黄褐色細砂
- VI 10Y R4/2 灰黄褐色細砂
- VII 10Y R5/4 上土・黄褐色細砂
- VIII 10Y R2/3 黄褐色細砂
- IX 10Y R4/4 褐色細砂
- X 10Y R3/5 黄褐色細砂
- XI 10Y R5/5 黄褐色細砂
- XII 10Y R6/8 明黄褐色細砂
- 1 10Y R5/5 黄褐色細砂
- 2 10Y R5/7 黄褐色細砂
- IV 7.5Y R7/8 黄褐色細砂

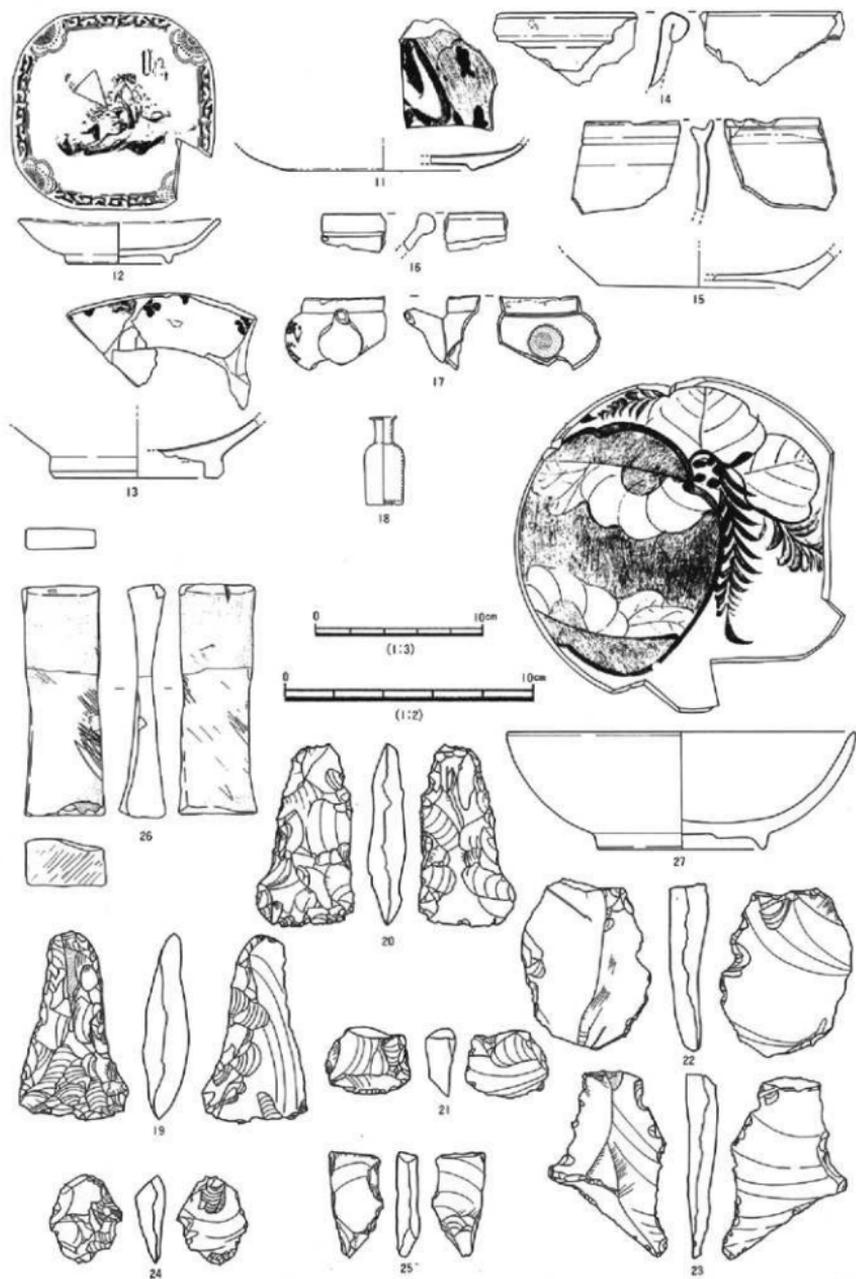
0 4m

第33图 東側鞍部・北側鞍部 Q-Q'・R-R'土層断面図 (S=1:80)

IV 水沢船跡



第34図 SP50・51・SK54・SP55 (S=1:30) 出土遺物 (S=1:3)



第15図 出土遺物(陶磁器はS=1:3、石器はS=1:2)

磁器 第34図1は磁器碗である。外面体部の草花文を施す。肥前産と考えられる。2は湯飲み茶碗かと思われ、瀬戸・美濃産かと思われる。3は外面に呉須の二重網目文を施す肥前産の茶碗である。4は肥前産の草花文の茶碗である。5は瀬戸・美濃系と思われる。6は肥前系のくらわんか茶碗である。7は竹文の湯飲み茶碗と思われる。9は見込みが蛇の目軸刺ぎの皿で肥前系のものである。時期は18世紀第1四半期～第2四半期と考えられる。11は肥前系の大皿で底径の推定径は11.2cmを測る。呉須の絵付けは感覚的である。時期は18世紀の後半代と考えられる。

陶器 第35図(13～17):15以外は産地不明である。15は鉄軸の鉢と考えられる。おそらく瀬戸・美濃系と考えられる。時期は現代に属するものと思われる。

ガラス製品:10はガラスの小瓶である。薬品を入れたものかと思われる。

石器 第35図(19～25):19～21は石筥である。いずれも表土からの出土である。頁岩を素材としている。剥片の背面と主要剥離面、その長軸末端の刃部の第2次剥離の手法は粗末な感じがする。19は主要剥離面の加工が中心で、背面は周辺加工のみである。20は両面加工が認められる。21は刃部の破片であるが大きさは他のものと同様であると考えられる。隣接する山居遺跡のものと同様である。22からは剥片である。22は一部に2次加工の認められるものである。24は今回の調査で唯一遺構から出土したものである。全体的に時期は縄文時代中期後葉頃と考えられる。

石製品 第35図(26):砥石が1点出土している。表採である。現代のものの可能性が高い。

表3 水沢館跡出土遺物観察表

検出 No.	器形 種別 器種	出土地区	出土遺構	計測値 (mm)				胎土 色	文様	軸 種類	釉 厚	焼成	産地	備考	図版	
				口径	底径	器高	器厚									
1	磁器 碗	54-59-1	---	95	33	32	4	5Y8/1灰白	良	草花文	石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	14	
2	磁器 碗	60-52-1	---	---	---	36	(42)	4	白	良	石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	15	
3	磁器 碗	56-53-1	---	---	---	---	---	5	5Y8/1灰白	良	二重網目文	石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	15
4	磁器 碗	58-53-1	---	---	---	---	---	4.5	N7/0灰白	良	草花文	石灰透明普通	良	肥前系	藍色染付入 くらわんか	15
5	磁器 碗	54-61-1	---	---	40	(24)	3.5	2.5Y8/4黄良	良	灰軸透明普通	良	瀬戸・美濃系	くらわんか	14		
6	磁器 碗	52-52-1	---	---	37	(24)	6	5Y8/1灰白	良	石灰透明普通	良	肥前系	くらわんか	15		
7	磁器	59-58-1	---	---	---	---	3.5	5Y8/1灰白	良	竹文	石灰透明普通	良	肥前系		15	
8	磁器 大皿	59-52-1	---	40	18	15	2	5Y8/1灰白	良	石灰透明普通	良		現代カ	15		
9	磁器 皿	51-51-1	---	12.7	---	(29)	4	5Y8/1灰白	良	石灰透明普通	良	肥前系	蛇の目軸ハズ	15		
10	磁器 皿	61-52-1	---	90	42	22	4	5Y8/1灰白	良	石灰透明普通	良			15		
11	磁器 皿	59-52-1	---	---	111	(16)	4	2.5Y8/1灰白	良	石灰透明普通	良	肥前系		15		
12	磁器 皿	55-53-1	---	118	60	27	3	2.5Y8/1灰白	良	山水文	石灰透明普通	良		14		
13	陶器 鉢?	56-51-1	---	---	98	(36)	6	5Y6/4黄良	良	灰? 白普通	良			15		
14	陶器 鉢?	54-59-11	---	---	---	---	7	7.5Y7/6 にぶい橙	良	石灰透明普通	良			15		
15	陶器 鉢	52-62-1	---	---	120	---	6	2.5Y8/4黄良	良	鉄 透明普通	良	瀬戸・美濃系		15		
16	陶器	X-0	---	---	---	---	6	2.5Y8/1黄良	良					15		
17	陶器 呉須	60-61 56-58	---	---	---	(45)	2	2.5Y8/1黄良	良					15		
18	ガラス 小瓶	?	---	16	20	54	1	無色						14		
27	磁器 鉢	55-53-1	---	206	10	72	7	白色	良	草花文	石灰透明普通	良		14		

種別	出土地区	最大長	最大巾	厚	重量	石材	図版
19	石筥	53-53-1	73	41	17	38.67	頁岩 15
20		X-0	71	37	14	31.60	頁岩 15
21	鹿伏石器	X-0	---	32	12	10.20	頁岩 15
22	石器剥片	X-0					
	E網罟跡		65	50	14	45.50	頁岩 15
23		54-54-1	72	47	12	27.65	? 15
24		SP50F	35	28	11	7.96	頁岩 15
25		52-62-1	41	20	9	8.48	? 15
26	砥石		141	48	28	252.36	14

V まとめ

1. 横嶋橋跡

街道の堀割り、大規模な盛土整地を行った平場や礎石建物跡、石積み、溝跡、柱穴が見つかった。これらの遺構のおおよその年代は、近世から近代の陶磁器や寛永通寶、一銭銅貨などからみて近世～近代と思われる。中世のものは認められなかった。

礎石建物跡についてはSB1・2は時期差はないものと考えられる。SB1に比べてSB2の規模が異なるのは後世に礎石が動かされ不明になったことも考えられ、1間×1間とは想定したが、SB1と軒が揃うような1間×2間の可能性が高い。建物跡の性格については、出羽三山参詣者に入山許可の手形を発行していた場所や「ウバドウ」と呼ばれ、番所であったとの伝承が残っている。

第22図では遺構の変遷を大別して2時期とした。I期は礎石建物や柱穴群、街道と石積み機能が最も充実した時期で、出土遺物の最も多い18世紀末～19世紀後半頃と考えたい。II期はこれら1号平場の階遺構が機能を果たさなくなり、平場中央に位置する街道が埋められ、単なる広場として存続する19世紀末以降と考えられる。この2つの時期の面期については文献との比較検討という作業を行っていないので、今後の課題とした。

2. 水沢館跡

館跡は、大別して山頂付近の粗放な平場群（山上域）と山腹の寒河江川に向かって延びる空畑群（山腹域）、各平場の面積も大きく落差の少ない麓（山麓域）の3つより構成される。特徴的なのは山上域の主郭よりも南側尾根筋に展開する腰曲輪群の方が広い面積を確保しており、北側背後の堀切が存在せず、尾根筋は堀切の存在する地点付近より南側は手をつけられていないことがあげられる。山腹域・山麓域についての詳細は後述に譲るとして、現況では西側のみ横堀を多用する県内でも希な縄張りをもつ館跡と考えられるが、近年まで地滑りが繰り返された地区と考えれば、山頂部西端より山麓部分にかけては縄張り的な不自然さが目に付き、原地形は大きく改変した可能性は高い。

調査区は地滑り地形の上に構築された石積みや平場群が検出された。館跡に直接関係するものは検出・出土していない。大きな3つの平場は明らかに人為的なものである。その構築時期は盛土下の旧表土から検出された炭化物の放射性炭素測定年代以外は出土遺物も見られず積極的な年代決定はできないが、斜面下東側鞍部に設定したトレンチ下層で、おそらく斜面崩壊時に逆転した旧表土層から近世陶器片が出土していることから、地滑りは近世以降に発生し館跡西側を破壊したものと考えられる。したがって強いて平場群の形成を類推すれば、明らかに地滑り地形の上に構築されているので、19世紀以降のものと考えられる。3つの平場に付随する2つの石積みについても同様の年代が想定できよう。

今後水沢館のみならず周辺の館の立地と構造を検討することによって領域内での戦国期の様相を解明できる糸口の一つになろう。

報告書抄録

ふりがな	よこぐさたてあと みずかたてあとほつくつちよりかほりこくし							
書名	横岫橋跡・水沢館跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第39集							
編集者名	眞壁 建							
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-31 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL0236-72-5301							
発行月日	西暦1996年9月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
横岫橋跡	山形県 西村山郡 西川町 大字水沢 字鍵立	06322	平成4年度 新規登録	38度 26分 15秒	140度 04分 26秒	19940606 ～ 19940721	750m ²	東北横断 自動車道 酒田線 建設工事 (寒河江～ 西川間)
水沢館跡	山形県 西村山郡 西川町 大字水沢 字沼頭	06322	平成4年度 新規登録	38度 26分 03秒	140度 05分 48秒	19940714 ～ 19941028	3,462m ²	東北横断 自動車道 酒田線 建設工事 (寒河江～ 西川間)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
横岫橋跡	街道跡	近世～ 近代	礎石建物跡 石積み 切通し 平場 土坑 溝 柱穴	2 2 1 7 4 1 6	近世陶磁器 碗・撥鉢・甕 近世貨幣 寛永通寶他 ガラス製品 数珠玉		岩盤を削り出して造 成した平場に礎石建 物と石垣を配置する。 切り通しとセットに なって近世の街道を しのばせる。	
水沢館跡	城館跡	縄文時代 中世～ 近世	平場 石積み 土坑	2 2 1	石器 石篋 スクレイパー 陶磁器 碗・皿・甕		山上の平場群を中心 に遺構は西側山腹に 展開する。ただし調 査の結果、西側山腹 の遺構群の多くは地 滞りによって生じた ものと考えられる。	

付 編

水沢館跡の放射性炭素年代測定結果

株式会社 パレオ・ラボ

放射性炭素年代測定は、水沢館跡から採取された1試料について行った。分析用試料は、オリブ褐色土壌を用いた。以下の表1に測定結果を示す。なお、測定は学習院大学放射性炭素年代測定室の木越邦彦氏にお願した。

年代は ^{14}C の半減期5570年（LIBBYの半減期）にもとづいて計算され、西暦1950年よりさかのぼる年数（yrs BP）として示している。付記された年代誤差は、 β 線の計数偏差 σ にもとづいて算出した年数で、標準偏差（ONE SIGMA）に相当する年代である。また、 β 線計数率と自然計数率の差が 2σ 以下のときは 3σ に相当する年代を下限の年代値として表示してある。

さて、水沢館跡は中世の城館跡で主郭、曲輪群、空堀などが確認されている。ここでは、石積み遺構の形成時期を特定することを目的に、遺構直下の旧表土層と推定される堆積物の放射性炭素年代測定を行った。測定結果は、 570 ± 100 yrs BPと年代値的には中世の年代値が得られていた。したがって、年代値的には旧表土とみなして問題ないであろう。なお、この年代値の妥当性については考古学的に検討する必要がある（平成7年3月）。

表1 水沢館跡の放射性炭素年代測定結果

試料番号	測定試料	コード番号	測定値 (yrs BP)
Mizusawa	オリブ褐色土壌	GaK-18522	570 ± 100 (A.D 1380)

图 版



遺跡遠景 (東から)



献入れ式



調査区全景 (東から)



3号平場調査前状況 (西から)



3号平場伐木撤去状況 (西から)



調査区伐木撤去状況 (東から)



1号平場伐木撤去状況 (南から)



伐木撤去状況 (東から)



SB1・2調査前状況 (南西から)



作業風景 (東から)



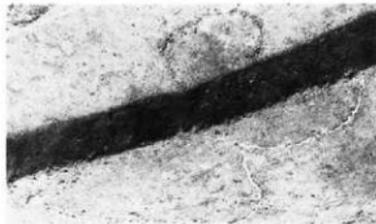
7号平場西側完掘状況 (西から)



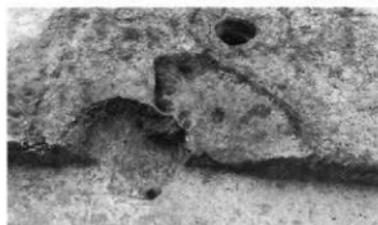
7号平場U-U'土層断面 (北から)



7号平場U-U'地点隆起状況 (北から)



SK10土層断面 (北から)



SK10完掘状況 (北から)



EP50土層断面 (南東から)



EP51完掘状況 (南から)



EP51完掘状況 (南から)



1号平場北側土層断面 (南から)



SD48・柱穴群完掘状況 (南から)



SB1土層断面(北から)



SB1西側土層断面(北から)



SB1南北土層断面(北から)



SB1・2完掘状況(西から)



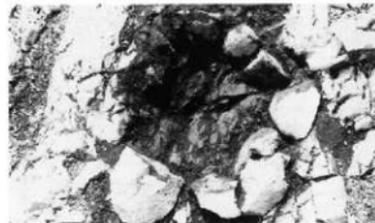
SB1・2調査状況(北西から)



SB1礫石(上方北)



1号平場(51-52)表土除去状況(南から)



SB1礫石下根固状況



1号平場H-H'土層断面部分その1(西から)



1号平場H-H'土層断面部分その2(北西から)



3号石積み検出状況（南から）



1号平場H-H'地点切石出土状況（北西から）



1号平場1-1'東側土層断面（北から）



4号石積み検出状況（北東から）



磁器（RP30）出土状況



磁器（RP31）出土状況



磁器（RP32）出土状況



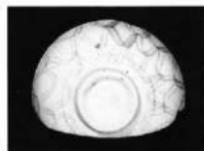
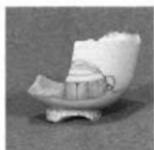
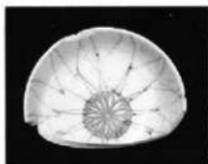
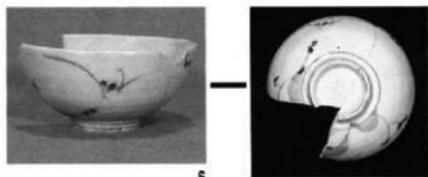
陶器（RP33）出土状況



陶器（RP34）出土状況

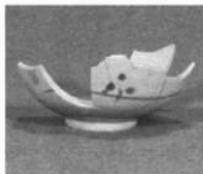
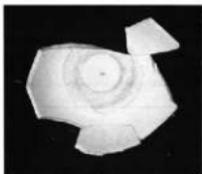


RX41出土状況

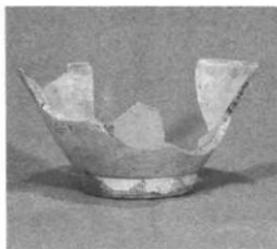




14



15



25



29



30



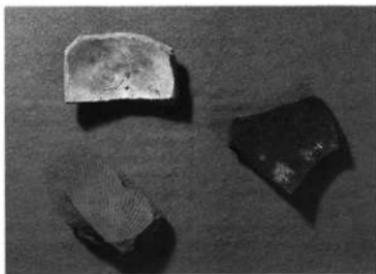
1・4～7・13



26



表



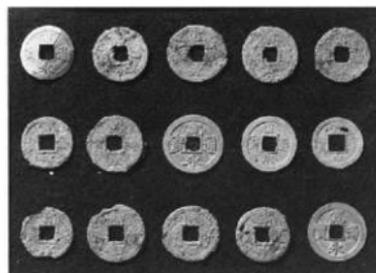
裏



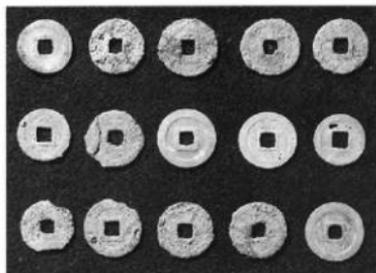
表



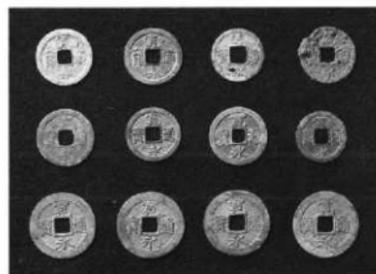
裏



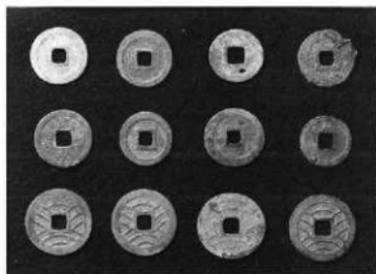
表



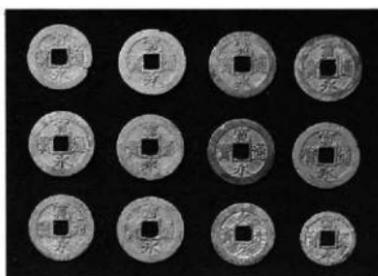
裏



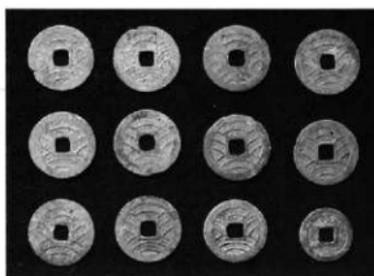
表



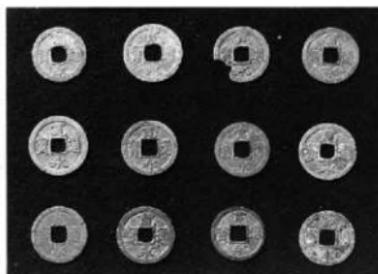
裏



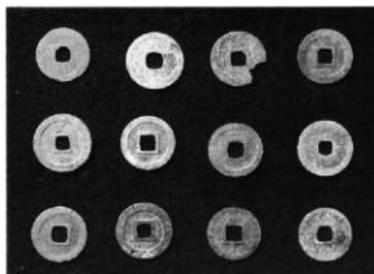
表



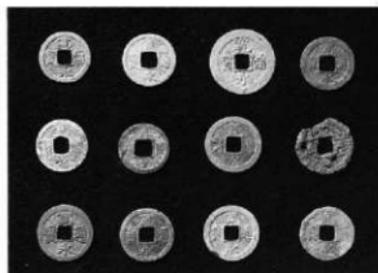
裏



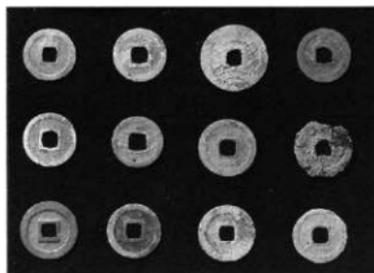
表



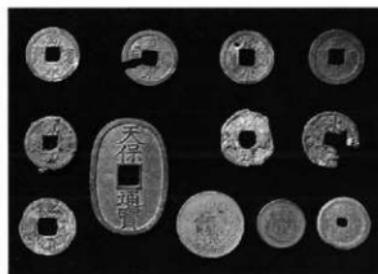
裏



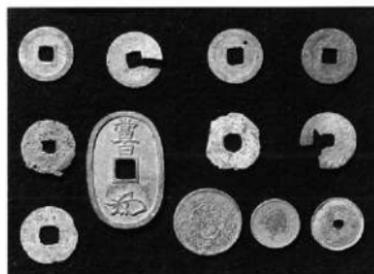
表



裏



表



裏

横轴插跡出土遺物(4)



遺跡遠景 (南東から)



調査区近景 (西から)



調査区近景 (東から)



重機稼働状況 (東から)



東側斜面伐木撤去状況 (北東から)



東側斜面調査前状況 (北東から)



東側斜面伐木撤去状況 (南西から)



東側斜面平場調査前状況 (南から)



調査区表土除去状況 (東から)



調査風景 (南から)



1号平場検出状況(北から)



1号平場・東側鞍部検出状況(北西から)



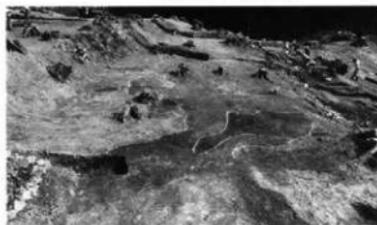
1～2号平場検出状況(北東から)



2～3号平場検出状況(南西から)



西側鞍部検出状況(北から)



3号平場検出状況(北から)



西側斜面検出状況(南から)



西側鞍部検出状況部分(北から)



C-C'西側土層断面(北東から)



K-K'土層断面(北東から)



1号平場土層断面 (南東から)



C-C' 東端土層断面 (北から)



O-O' 南端土層断面 (東から)



A-A' 東端土層断面 (北から)



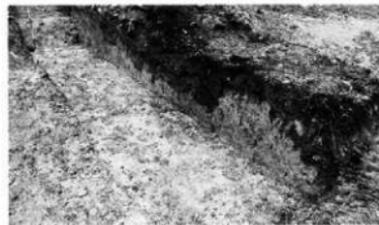
C-C' 中央土層断面 (北西から)



A-A' 西端土層断面 (北西から)



C-C' 2~3号平場土層断面 (北から)



A-A' 3号平場西側土層断面 (北から)



J-J' 西側鞍部土層断面 (北から)



C-C' 西端土層断面 (北東から)



東側斜面7号トレンチ土層断面 (北東から)



C-C' 1号石積み土層断面 (北東から)



Q-Q' 土層断面 (北東から)



東側斜面1~2号トレンチ土層断面 (東から)



R-R' 東側鞍部土層断面 (北から)



N-N' 土層断面 (北から)



M-M' 土層断面 (西から)



G-G' 土層断面 (西から)



1~2号石積み検出状況 (西から)



1号石積み精査前状況 (北から)



1号石積み検出状況（西から）



1号石積み検出状況（北から）



1号石積み検出状況（南西から）



1号石積み南端検出状況（西から）



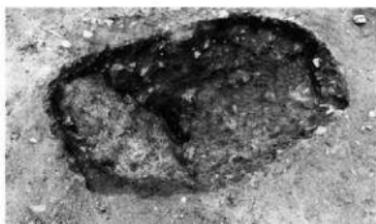
東側鞍部土層断面（西から）



2号平場落ち込み完掘状況（南から）



S K54土層断面（東から）



S K54完掘状況（東から）



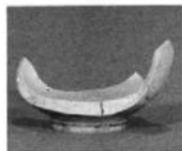
S X56土層断面（南から）



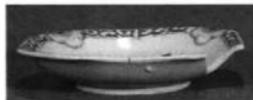
現地説明会風景（北から）



1



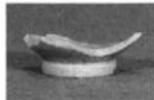
1



12



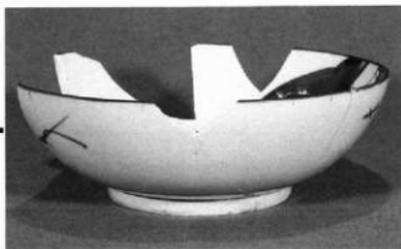
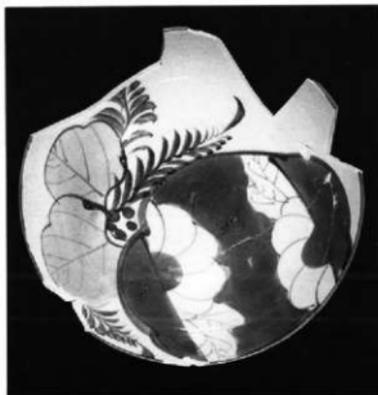
18



5



26



27



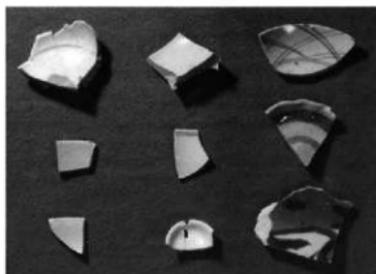
外



内



外



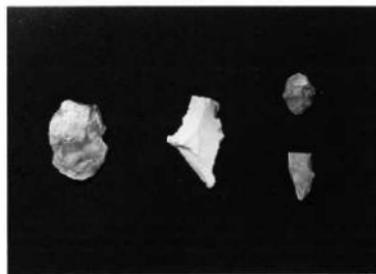
内



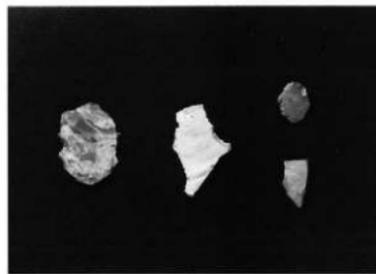
表



裏



表



裏

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第39集

横畑権跡 水沢館跡発掘調査報告書

1996年9月30日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター

〒999-31 山形県上市市弁天二丁目15番1号

電話 0236-72-5301

印刷 株式会社 田宮印刷所
